

# トランスファラブルスキル調査 報告書

実施期間： 2024年10月7日(月)～2024年12月1日(日)

令和7年2月12日



国立大学法人

北陸先端科学技術大学院大学

# トランスファラブルスキル調査項目

大項目	小項目	設問番号	設問	自己評価点 (5点満点)
Research Ability	博士号を取得する上で必要なスキル	1	学問領域に応じた方法論や理論枠組みを使用することができる	5 4 3 2 1
		2	適切な手段・手法を用いて研究に必要なデータを収集することができる	5 4 3 2 1
		3	データを収集する上での知識・技能をもち、安全に配慮しながら機器・器具・試薬・ツール等を使いこなすことができる	5 4 3 2 1
		4	適切な問いを立てることができる	5 4 3 2 1
		5	理論や数字を通して論証することができる	5 4 3 2 1
		6	既存の枠組みや理論を批判的に思考し、よりよい理論、枠組み、方法論などの新しい知見を提案することができる	5 4 3 2 1
		7	課題に対する社会的背景や学術背景を理解できている	5 4 3 2 1
		8	既存の研究の全体像を理解し、自身の主張や研究を位置づけることができる	5 4 3 2 1
		9	論文執筆や学会で報告等を行うことができる	5 4 3 2 1
	博士号を取得する上で必要な研究責任と運営	10	研究の倫理的行動に関連する行動規範とガイドラインを理解し、適用することができる	5 4 3 2 1
		11	データ保護法、情報公開法等、知的財産権、著作権等の法的枠組みについて基本的な理解を持ち、それに準じた運用をすることができる	5 4 3 2 1
		12	研究協力者に対する守秘義務や匿名性の権利といった人権や尊厳を守ることができる	5 4 3 2 1
		13	共同研究者の人権や尊厳を守ることができる	5 4 3 2 1
		14	専門機関および資金提供者が所属する機関の学術過誤に関する規則を理解し、それらを遵守することができる	5 4 3 2 1
		15	研究代表者として、研究プロジェクトの立案、運営、実施をすることができる	5 4 3 2 1
		16	研究上で関わる他者、社会、自然環境に対し、応答的責任を持つことができる	5 4 3 2 1
		17	自身の研究環境におけるリスクを認識し、回避することができる	5 4 3 2 1
Knowledge, Perspectives, Thinking Skills, and Behavior	思考	1	ものごとのつながりや関連を飛躍することなしに理解することができる	5 4 3 2 1
		2	ものごとのつながりや関連を学問的・社会的文脈を踏まえて理解することができる	5 4 3 2 1
		3	ものごとや事象、手段や結果に対する論理的整合性を見極めることができる	5 4 3 2 1
		4	ものごとや事象の前提にある「仮説」や「常識」を問うことができる	5 4 3 2 1
		5	「仮説」や「常識」を問い直すための適切な知識、概念、理論、観点、手法を身につけている	5 4 3 2 1
		6	具体的な事象や結果から共通性を認識し、その特徴を一般化することができる	5 4 3 2 1
		7	具体的な事象や結果からパターンや法則を導き出すことができる	5 4 3 2 1
		8	パターンや法則を介して、問題の核心に近づくことができる	5 4 3 2 1
	観点	9	自分の取り組んでいる研究や課題が、社会全体の中でどのような位置づけかを認識できている	5 4 3 2 1
		10	社会の中で自分の研究視座や立ち位置を認識できている	5 4 3 2 1
		11	様々な角度からものごとや現象を捉えることができる	5 4 3 2 1
	態度・意識	12	社会の課題に対する関心が高められている	5 4 3 2 1
		13	社会の課題や学問領域に対する自身の見方が明確になっている	5 4 3 2 1
		14	自分の社会的役割を認識できている	5 4 3 2 1

大項目	小項目	設問番号	設問	自己評価点 (5点満点)
Contributions and Social Impact	議論	1	自分とちがう意見を受け容れることができる	5 4 3 2 1
		2	人と異なる意見を発信することができる	5 4 3 2 1
		3	一人ひとりが発言しやすい環境づくりに貢献している	5 4 3 2 1
		4	個人差を尊重し、参加者の多様性を認識し、平等と公平さを意識した発言をすることができる	5 4 3 2 1
		5	議論を通して自身の意見をより明確化にすることができる	5 4 3 2 1
		6	タイムリーで適切な質問を行い、有用で効果的な質問をすることができる	5 4 3 2 1
		7	建設的な批判を受け入れ、与えることができる	5 4 3 2 1
		8	重要かつ意義のある議論を展開することができる	5 4 3 2 1
	貢献度	9	聞き手の専門性に応じて研究の成果や意義を伝えることができる	5 4 3 2 1
		10	研究、研究者、および公衆への関与と相互利益を認識することができる	5 4 3 2 1
		11	研究者の一員や社会の一員としての責任を強く感じることができる	5 4 3 2 1
		12	コミュニティに貢献する意欲が高まっている	5 4 3 2 1
		13	コミュニティに変化を起こすための行動等を実際に起こしている	5 4 3 2 1
		14	コミュニティや利害関係者との対話に従事したり、企業の社会的責任について深く理解することができる	5 4 3 2 1
社会的影響	15	研究の成果とそれを利用する人々との対話によって学術の価値を再考し、それを社会に還元することができる	5 4 3 2 1	
	16	研究成果を最大化するための協働関係を築くことができる	5 4 3 2 1	
	17	進捗状況をまとめ、文章化し、報告し、自身の研究活動の成果や意義と社会的影響について説明できる	5 4 3 2 1	
	18	コミュニティや利害関係者の中で、自身の役割や影響を認識することができる	5 4 3 2 1	
	19	これまで専門内外の人と協力して社会課題に取り組んだことがある	5 4 3 2 1	
	20	コミュニティや利害関係者のもつ課題を解決したことがある	5 4 3 2 1	
	21	国内および国際レベルで自身の研究の成果や意義を広く発信することができる	5 4 3 2 1	
Personal Development	個人の姿勢・態度・資質	1	障害や挫折に直面しても忍耐強く、仲間、上司、リーダーのサポートの恩恵を受け、前進することができる	5 4 3 2 1
		2	自分の知識、スキル、専門領域の境界を認識することができる	5 4 3 2 1
		3	自分の強みと弱みを意識し、パフォーマンスの向上に向け、行動することができる	5 4 3 2 1
	自己管理	4	必要に応じてアプローチを改善し、手引を参照し、リスクを認識することができる	5 4 3 2 1
		5	ワークライフバランスや他者のニーズを考慮することができる	5 4 3 2 1
		6	プロジェクトを戦略的に捉え、優先順位をつけ、計画し、前向きに取り組む、予期せぬことに対処することができる	5 4 3 2 1
	能力開発・キャリア開発	7	自分のキャリアプロセスに責任を持ち、管理し、現実的で達成可能なキャリア目標を設定することができる	5 4 3 2 1
		8	実務経験やインターンシップなど、アカデミア内外の幅広い雇用機会や専門能力開発の機会を利用し、エンプロイアビリティを向上させる方法を特定し、開発することができる	5 4 3 2 1
		9	所属機関内や広範な研究コミュニティ内で協力関係を築き、キャリアネットワークを構築することができる	5 4 3 2 1

# 付記事項

- 調査結果は本人による自己評価である
- 在學生と修了生の比較を行っているが、これは他者間の比較であり、原因—結果といった因果関係の根拠となるものではない
- 各大学ごとの在學生・修了生の平均をレーダーチャートにてそれぞれ小項目別に示している
- 「どちらともいえない」の回答は、原則空欄として平均を算出している
- N数が少ないのものは参考値(点線)として表示している

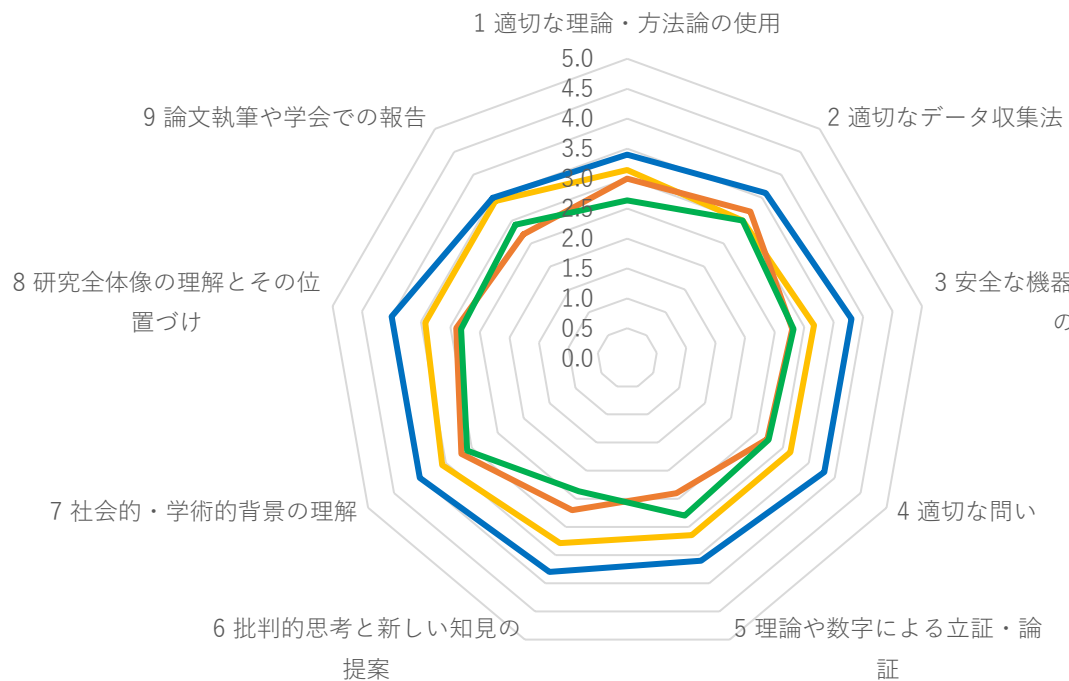
# 在學生・修了生比較

大学院リーグ参加校

# 博士号を取得する上で必要なスキル

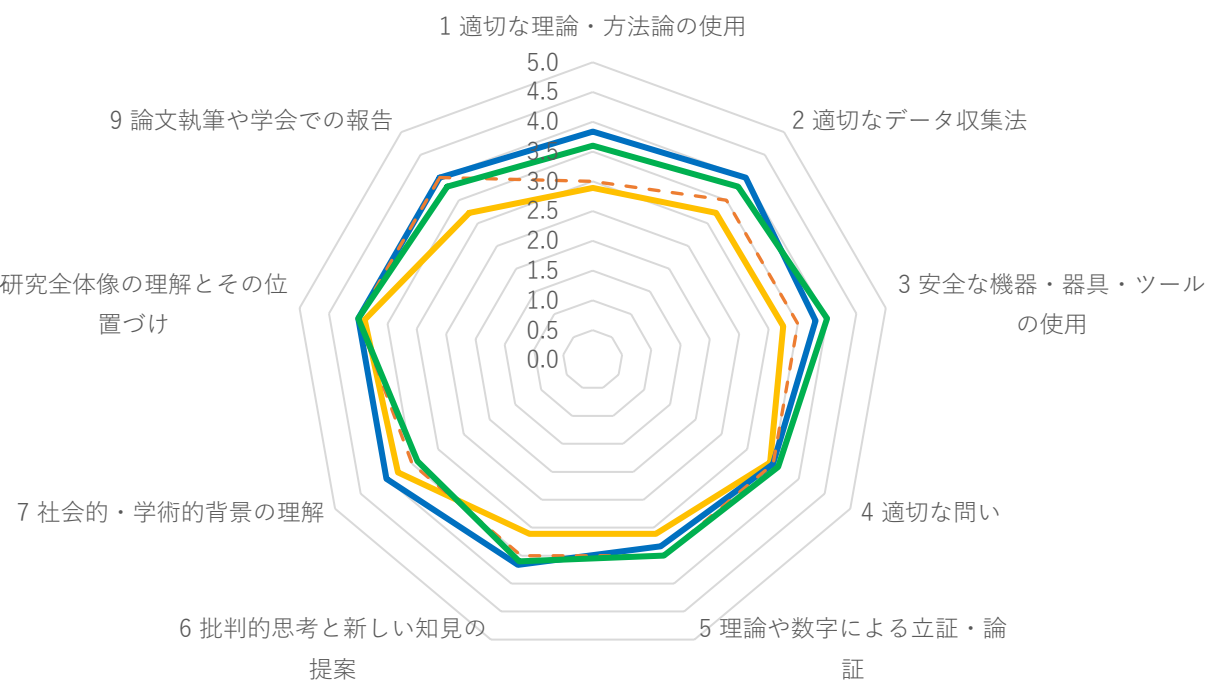
## 在学生

— A大学 (N=7) — B大学 (N=5) — C大学 (N=10) — D大学 (N=11)



## 修了生

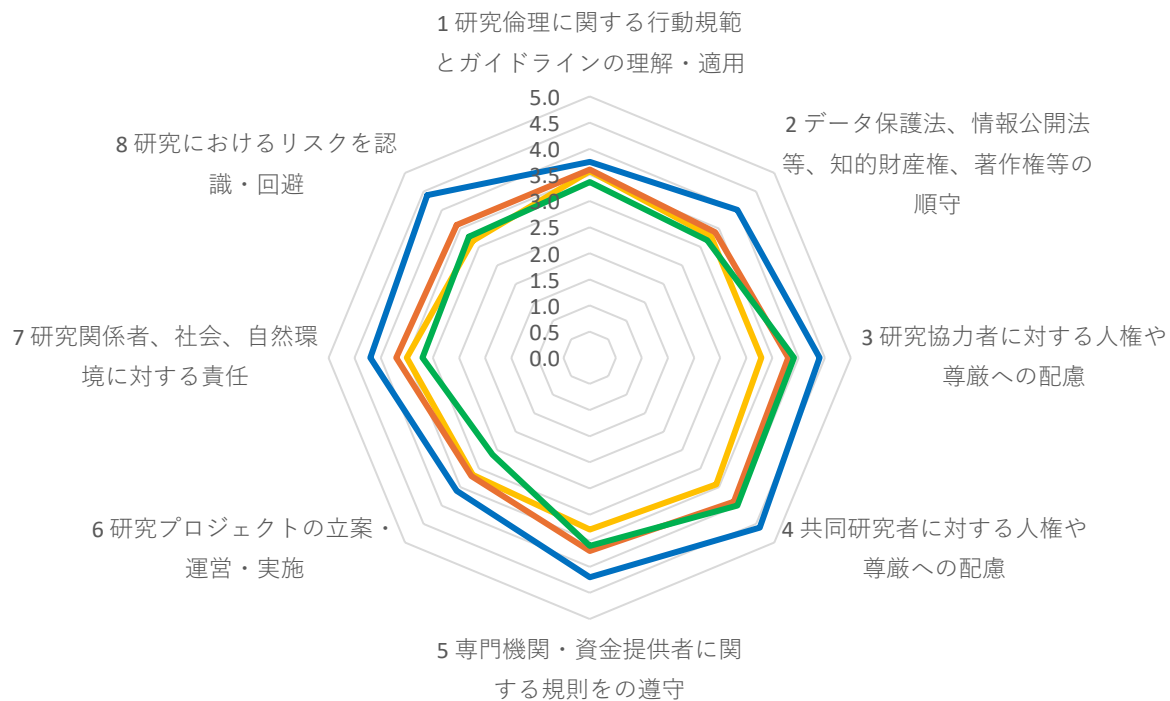
— A大学 (N=9) — B大学 (N=6) — C大学 (N=2) — D大学 (N=5)



# 博士号を取得する上で必要な研究責任と運営

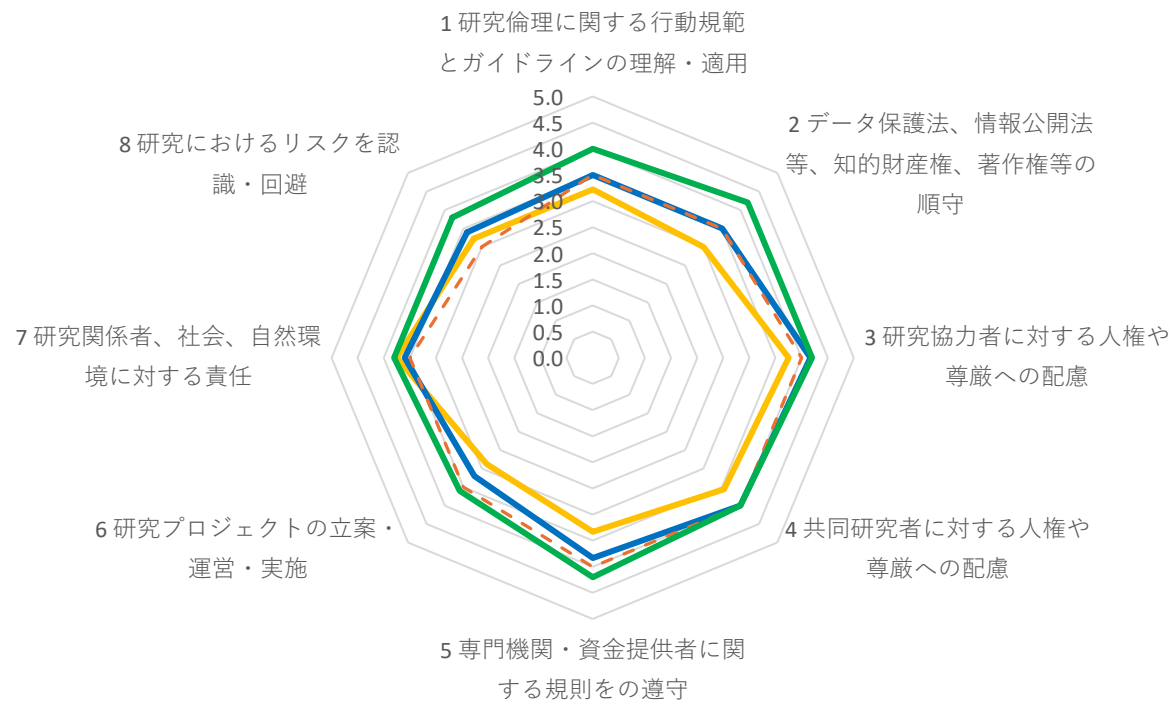
## 在学生

— A大学 (N=7) — B大学 (N=5) — C大学 (N=10) — D大学 (N=11)



## 修了生

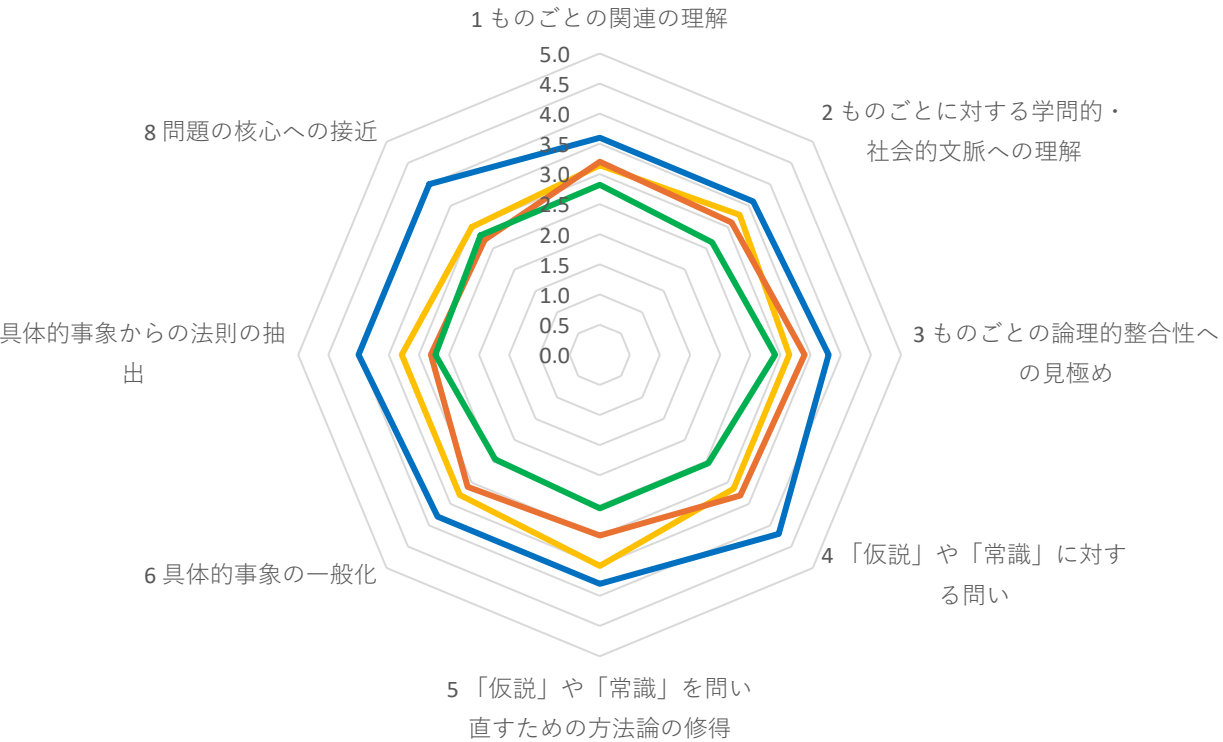
— A大学 (N=9) — B大学 (N=6) — C大学 (N=2) — D大学 (N=5)



# 思考

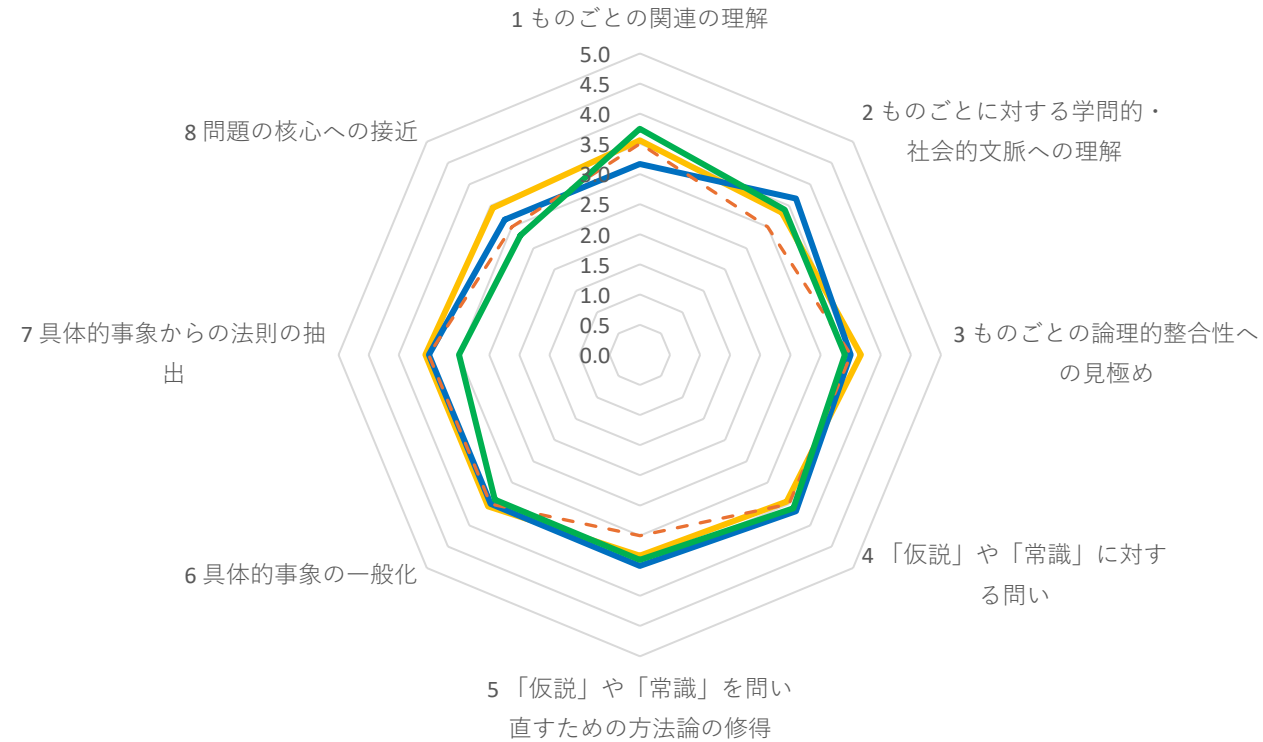
## 在学生

— A大学 (N=7) — B大学 (N=5) — C大学 (N=10) — D大学 (N=11)



## 修了生

— A大学 (N=9) — B大学 (N=6) — C大学 (N=2) — D大学 (N=5)

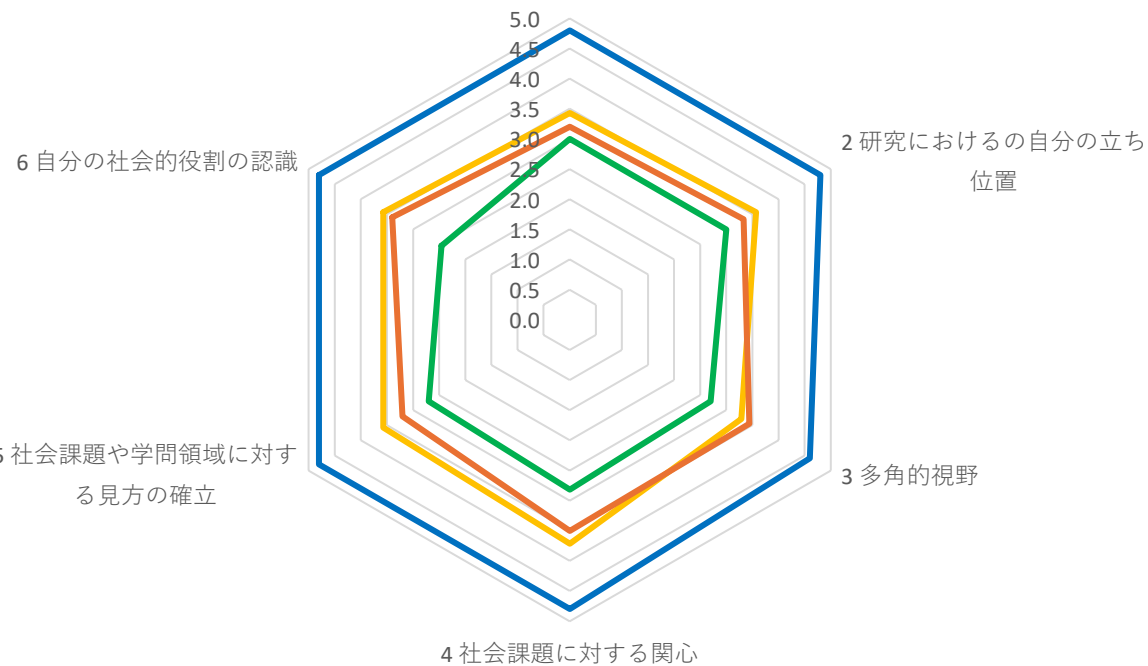


# 観点・態度・意識

## 在学生

— A大学 (N=7) — B大学 (N=5) — C大学 (N=10) — D大学 (N=11)

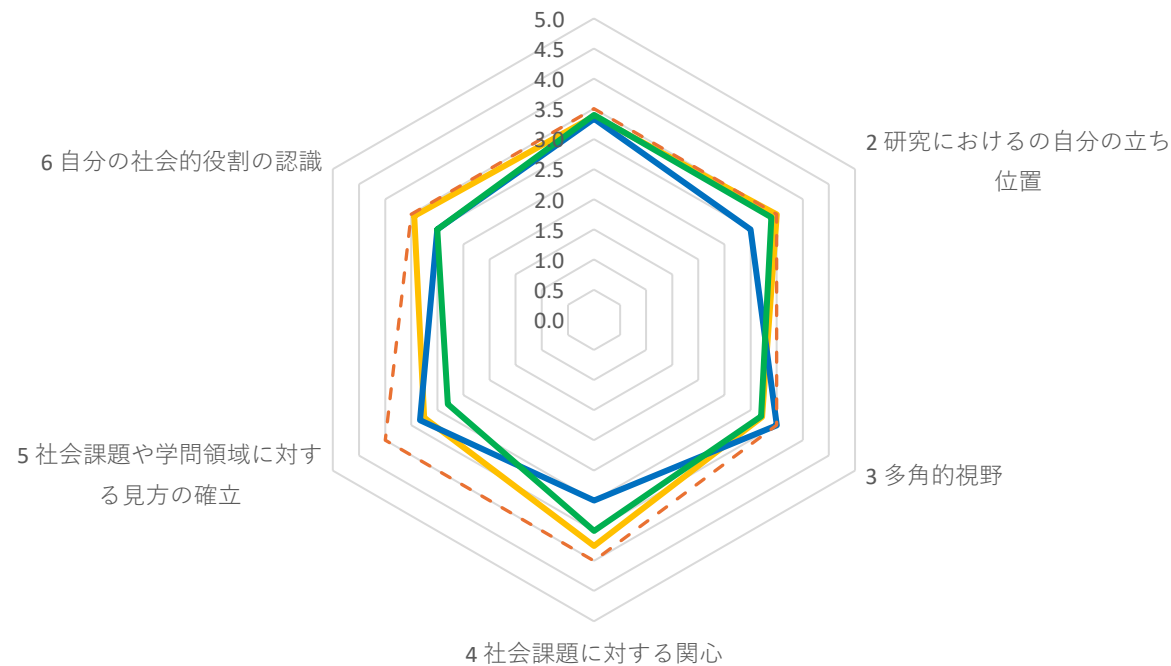
1 研究課題の社会的位置づけ



## 修了生

— A大学 (N=9) — B大学 (N=6) — C大学 (N=2) — D大学 (N=5)

1 研究課題の社会的位置づけ

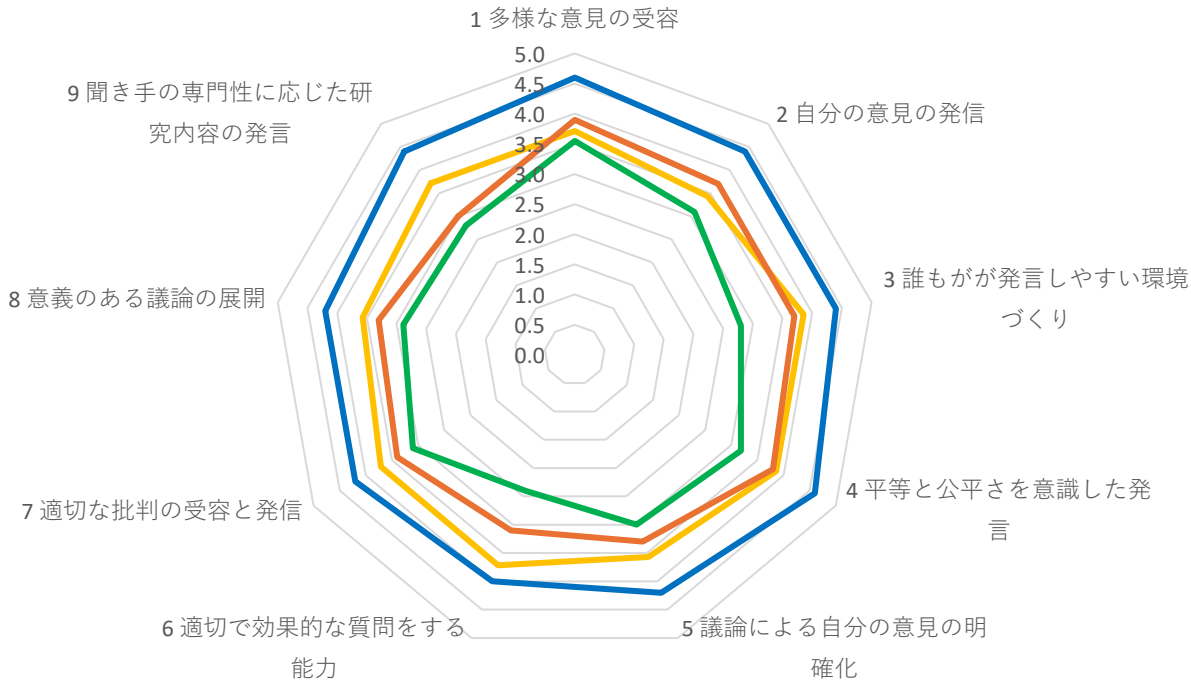




# 議論

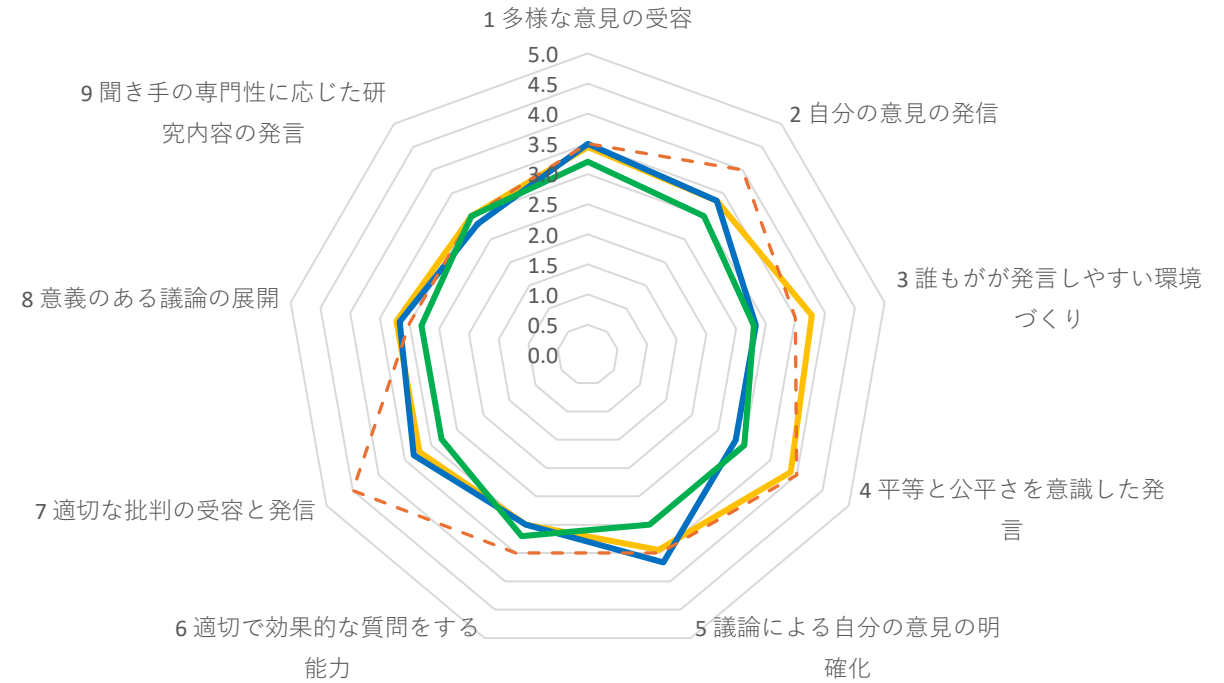
## 在学生

— A大学 (N=7) — B大学 (N=5) — C大学 (N=10) — D大学 (N=11)



## 修了生

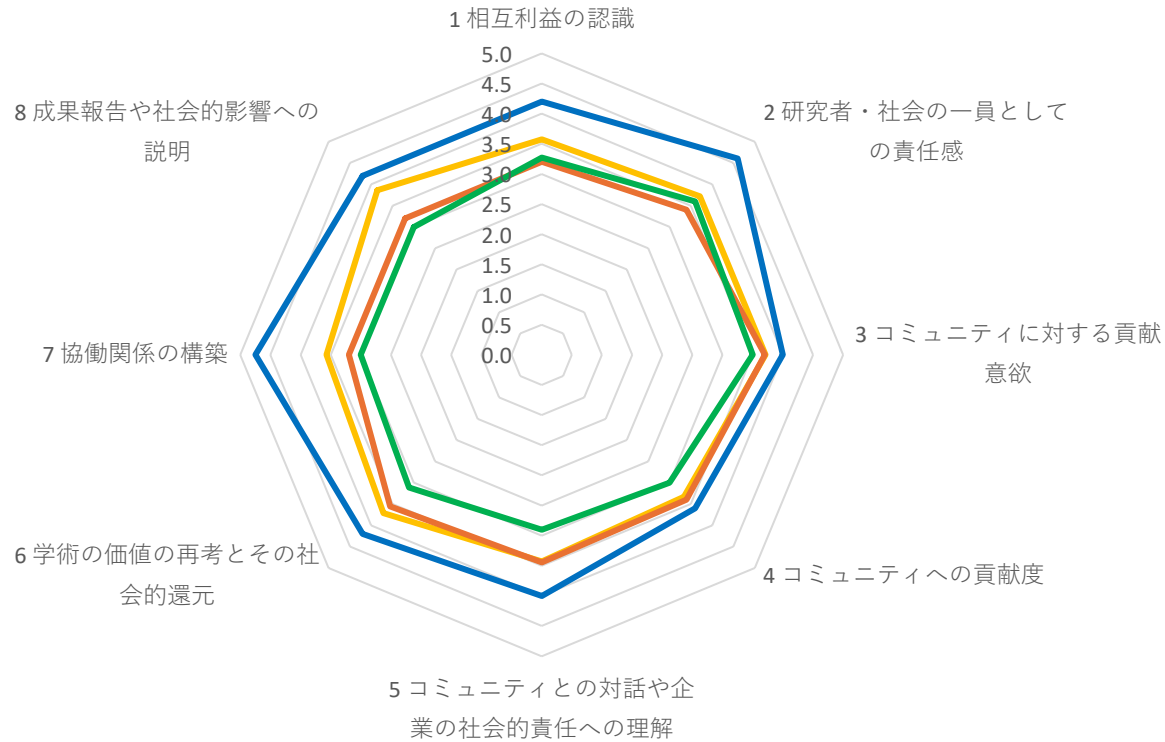
— A大学 (N=9) — B大学 (N=6) — C大学 (N=2) — D大学 (N=5)



# 貢献度

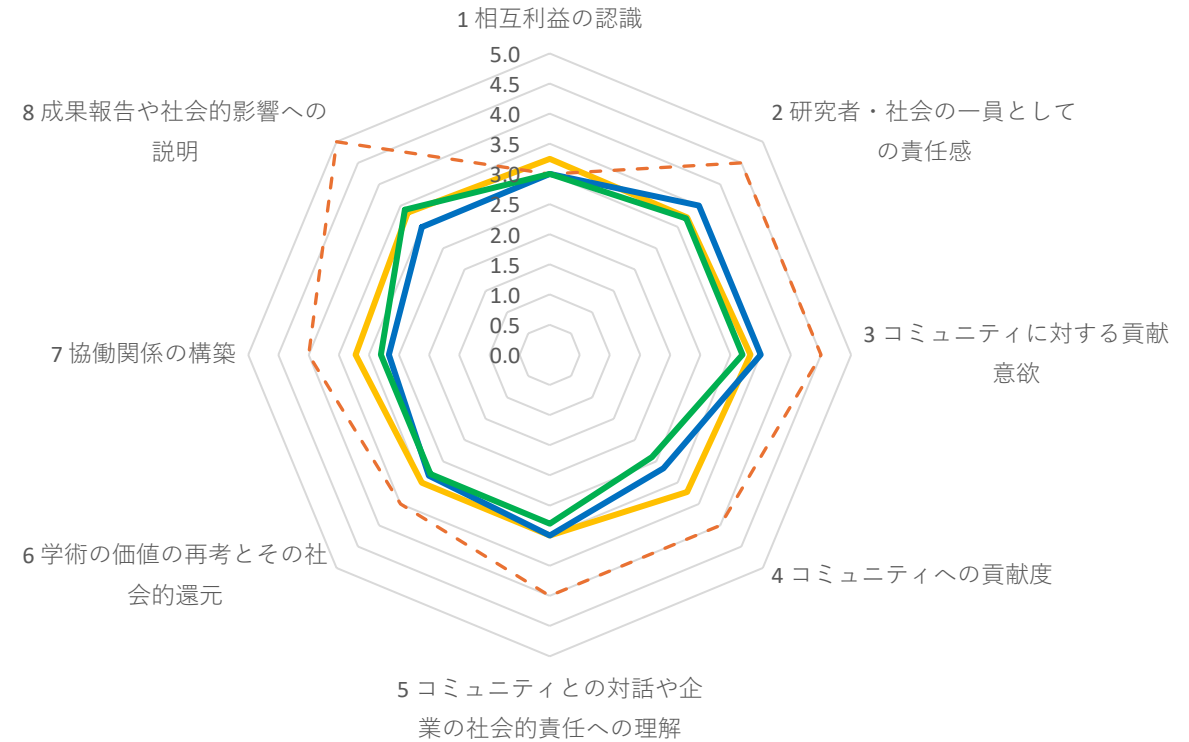
## 在学生

— A大学 (N=7) — B大学 (N=5) — C大学 (N=10) — D大学 (N=11)



## 修了生

— A大学 (N=9) — B大学 (N=6) — C大学 (N=2) — D大学 (N=5)

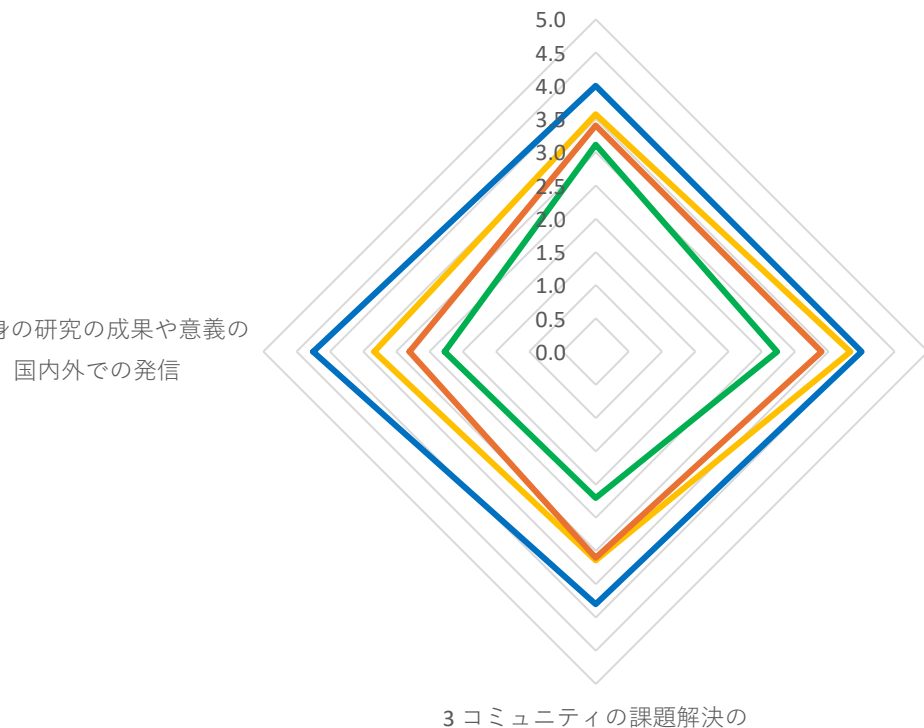


# 社会的影響

## 在学生

— A大学 (N=7) — B大学 (N=5) — C大学 (N=10) — D大学 (N=11)

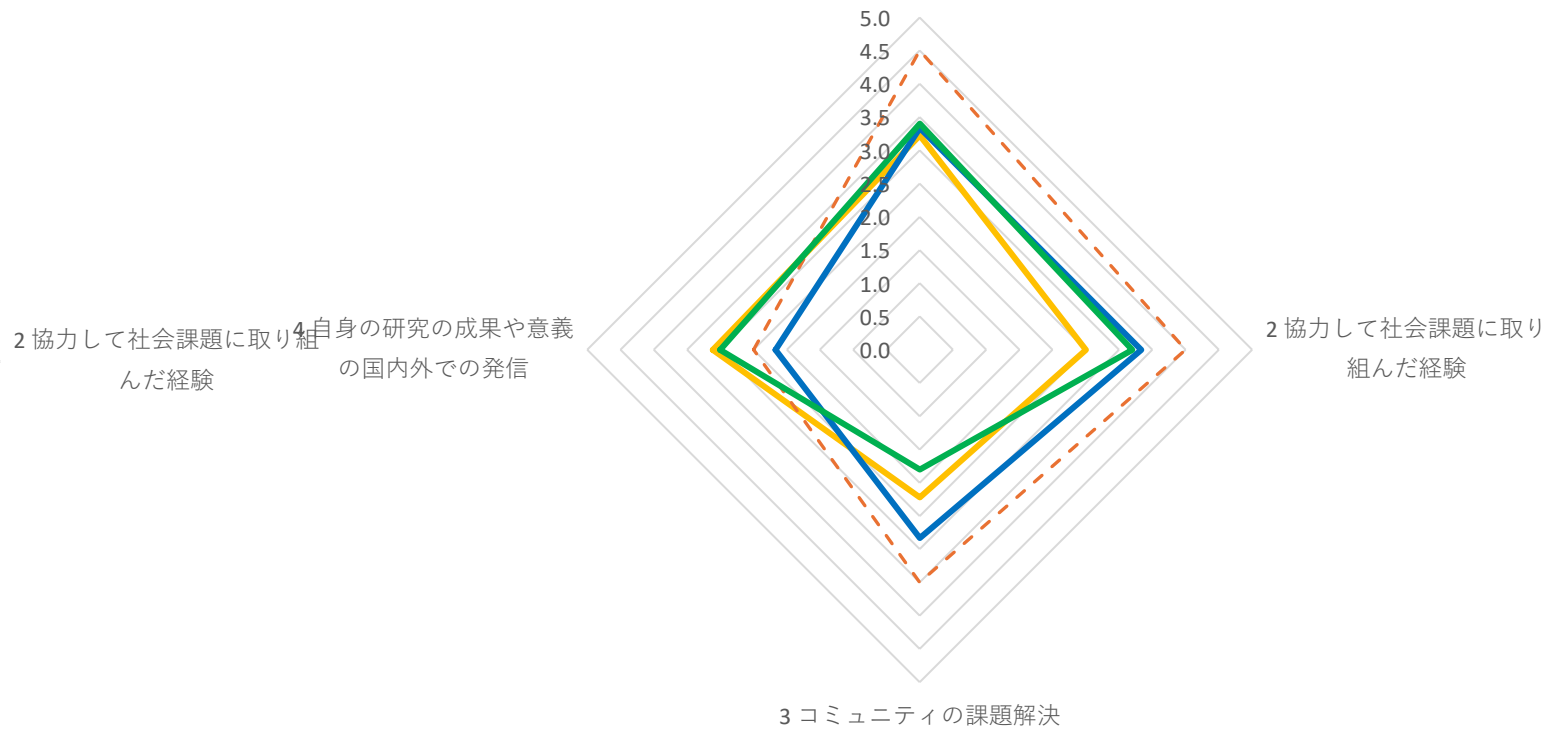
の役割や影響の認識



## 修了生

— A大学 (N=9) — B大学 (N=6) — C大学 (N=2) — D大学 (N=5)

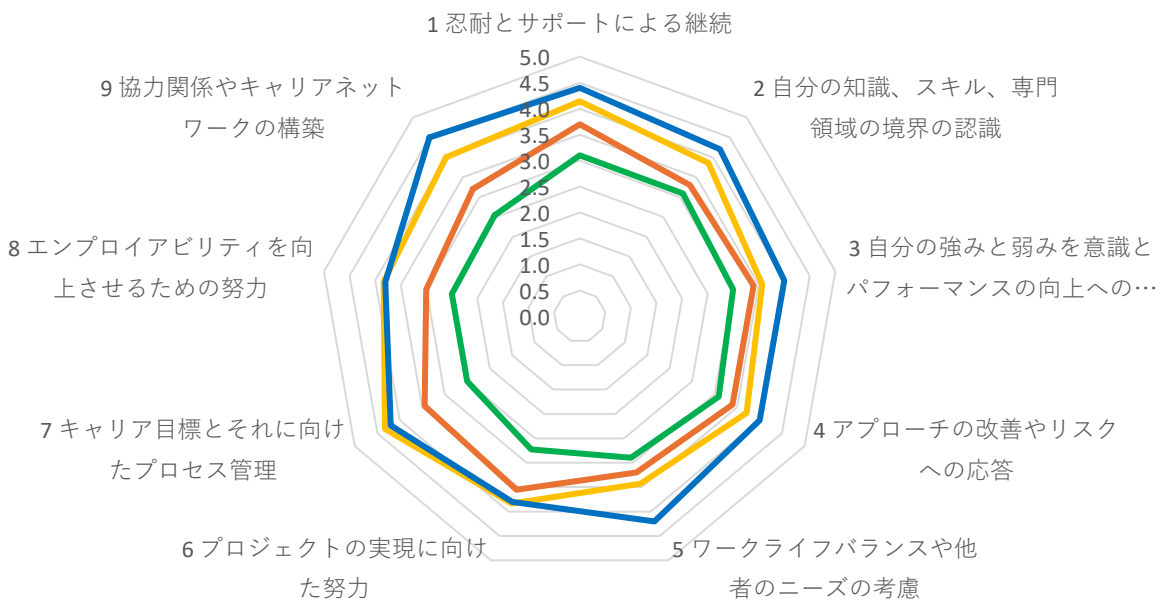
身の役割や影響の認識



# 個人の資質

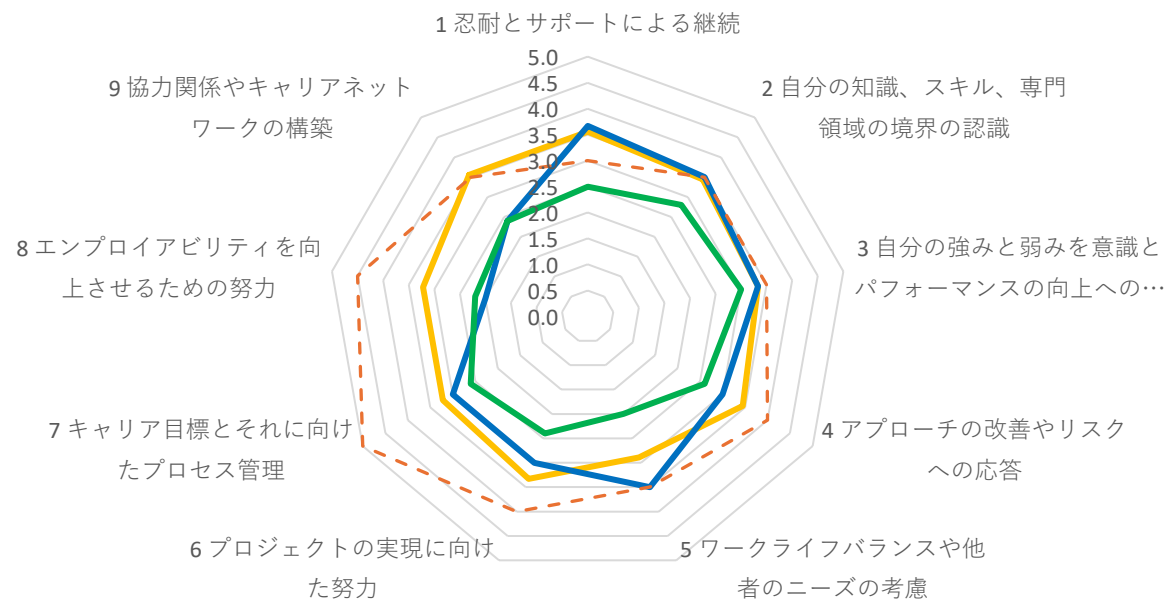
## 在学生

— A大学 (N=7)  
 — B大学 (N=5)  
 — C大学 (N=10)  
 — D大学 (N=11)



## 修了生

— A大学 (N=9)  
 — B大学 (N=6)  
 — C大学 (N=2)  
 — D大学 (N=5)



# 大学間比較

## —大学院リーグ参加校—

- 全体として、在學生はB大学、修了生はA大学とD大学の平均が高い結果となっている
- 各大学における平均の1位は以下の通りである

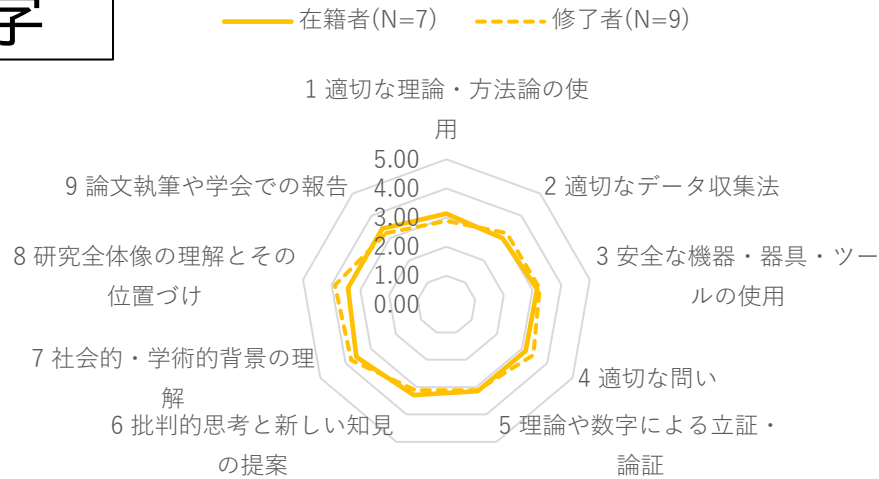
	在學生	修了生
A大学	個人の姿勢・態度・資質	思考
B大学	観点・態度・意識	博士号を取得する上で必要なスキル
C大学	博士号を取得する上で必要な研究責任と運営	貢献度 (*参考)
D大学	博士号を取得する上で必要な研究責任と運営	博士号を取得する上で必要な研究責任と運営

# 大学間比較

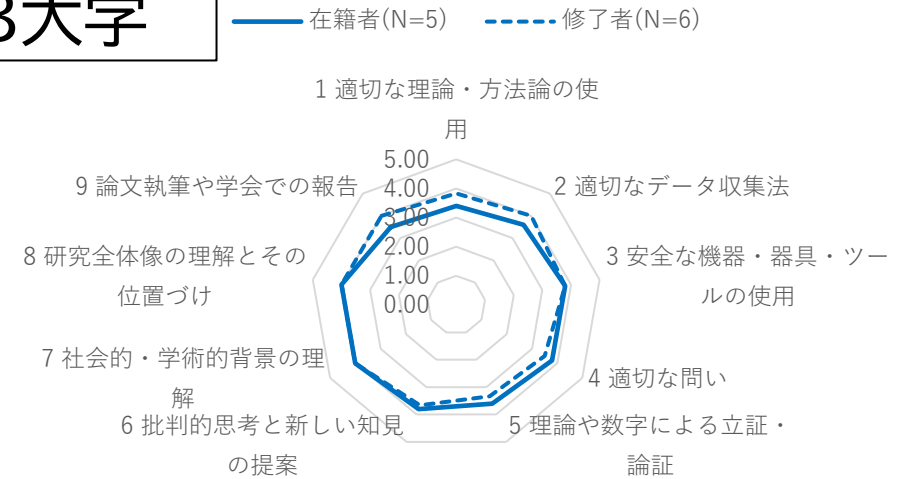
大学院リーグ参加校

# 博士号を取得する上で必要なスキル

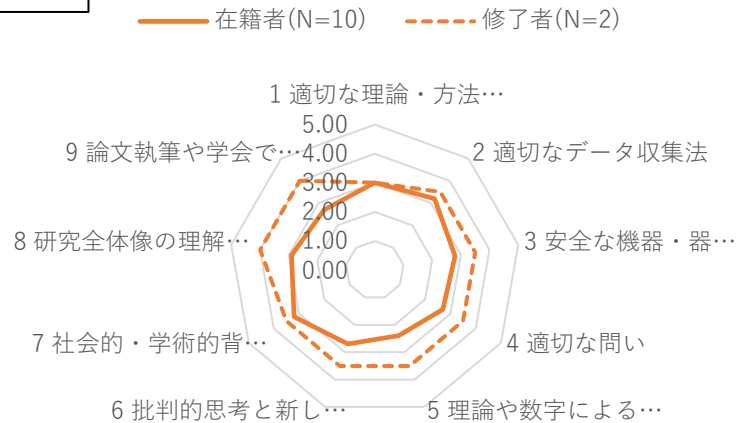
## A大学



## B大学



## C大学

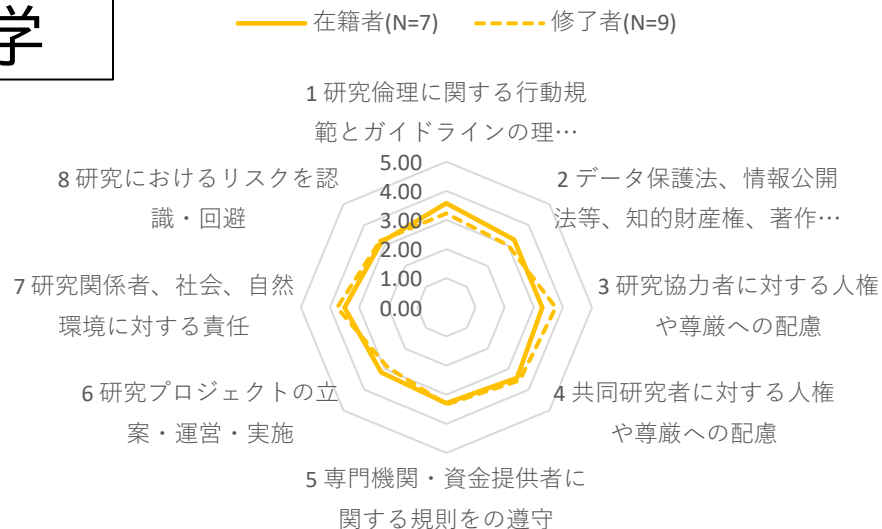


## D大学

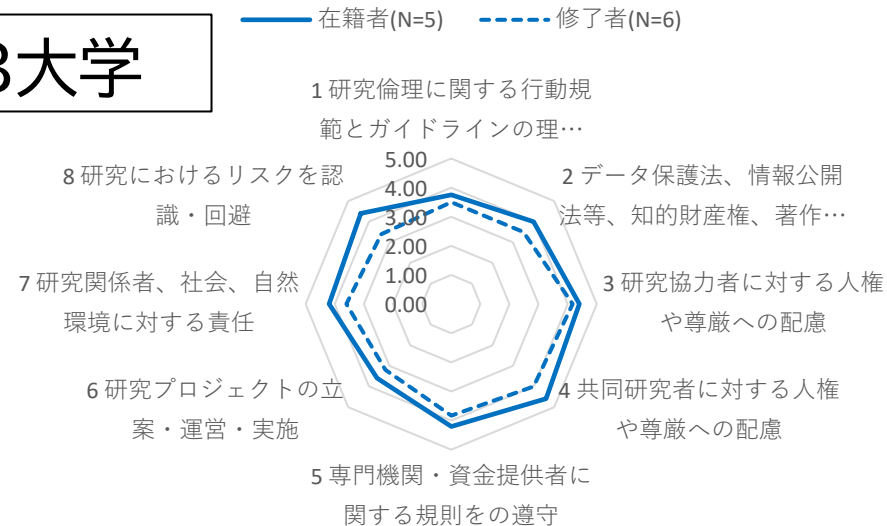


# 博士号を取得する上で必要な研究責任と運営

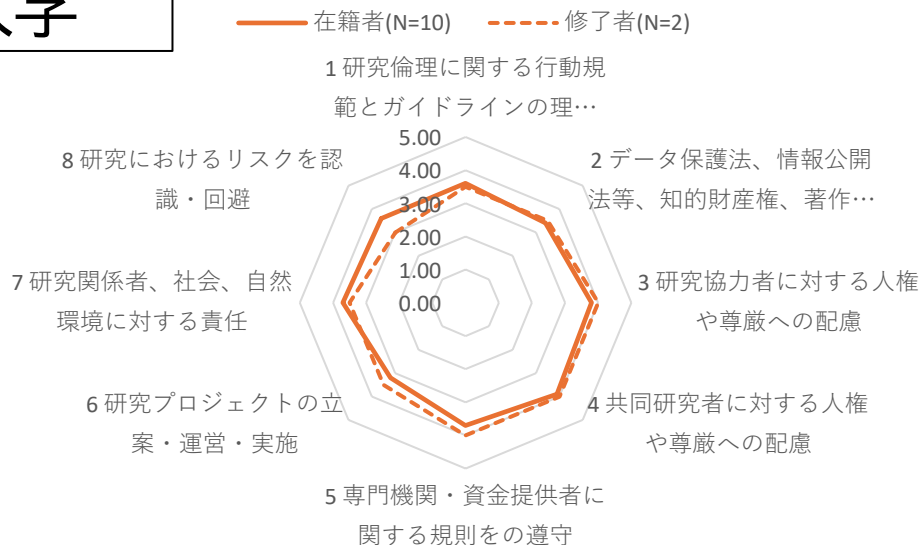
## A大学



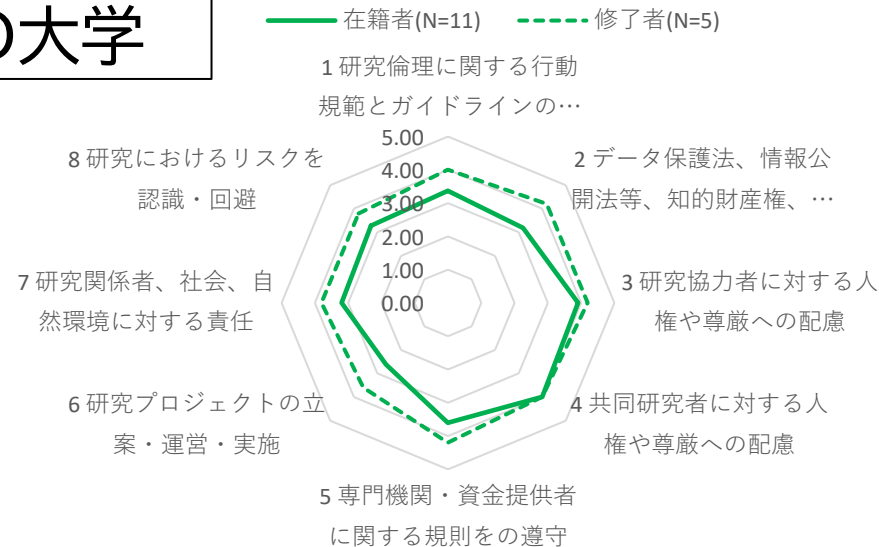
## B大学



## C大学



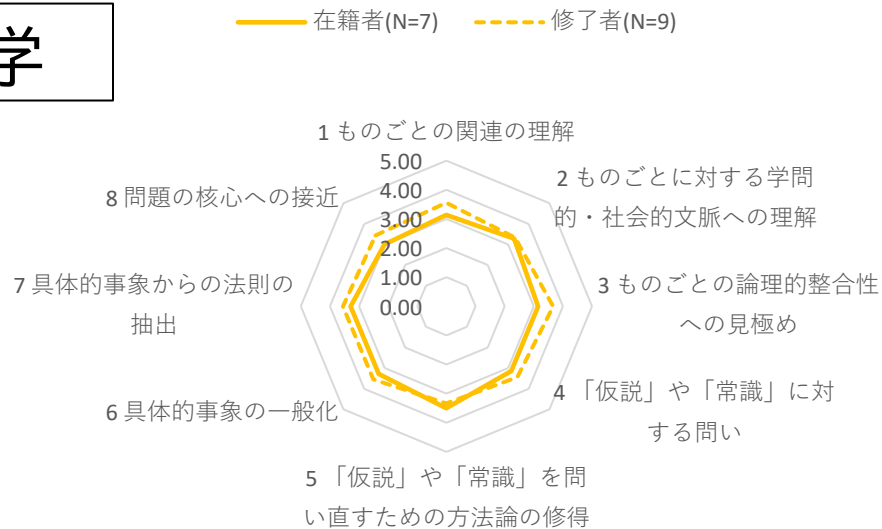
## D大学



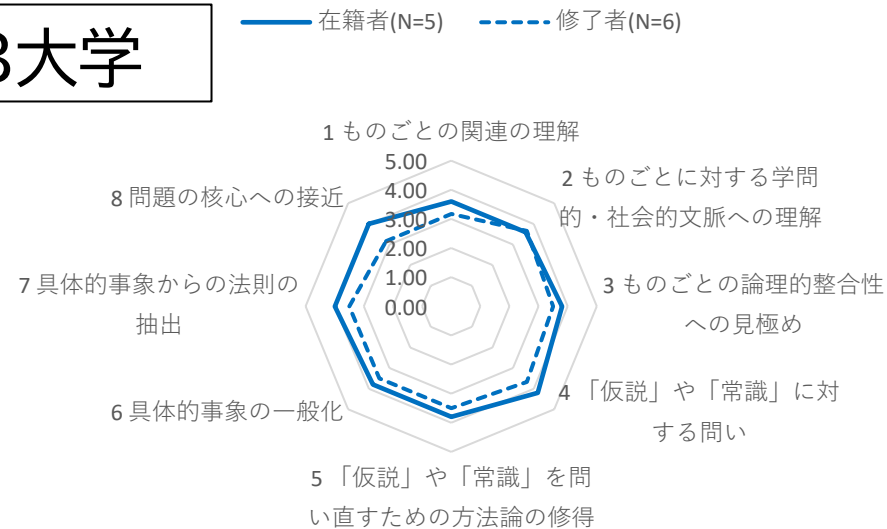


# 思考

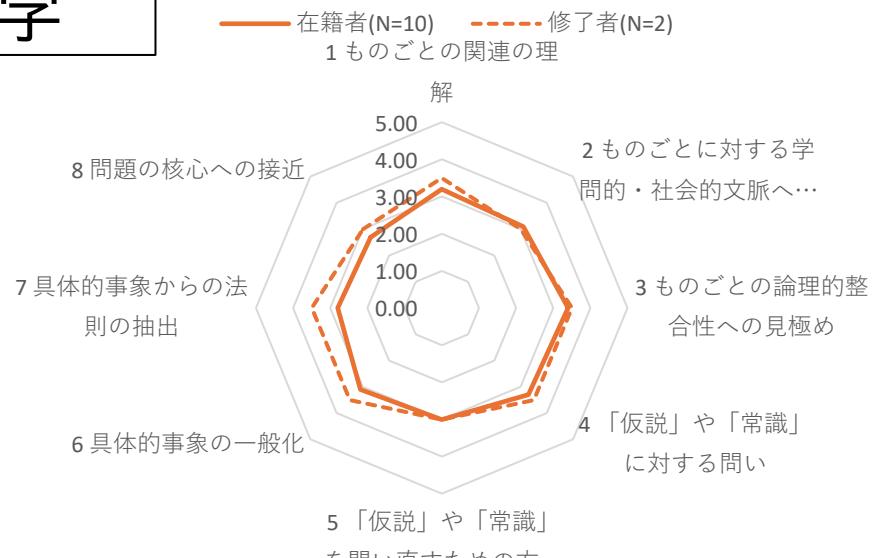
## A大学



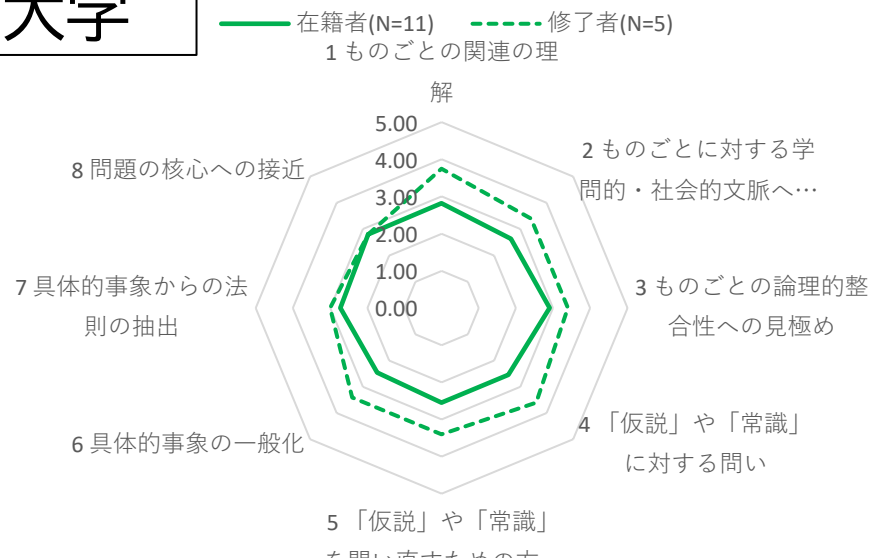
## B大学



## C大学

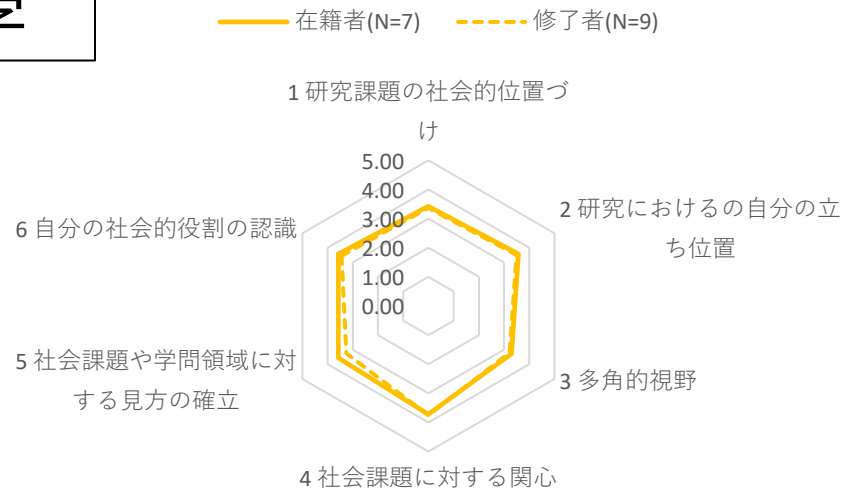


## D大学

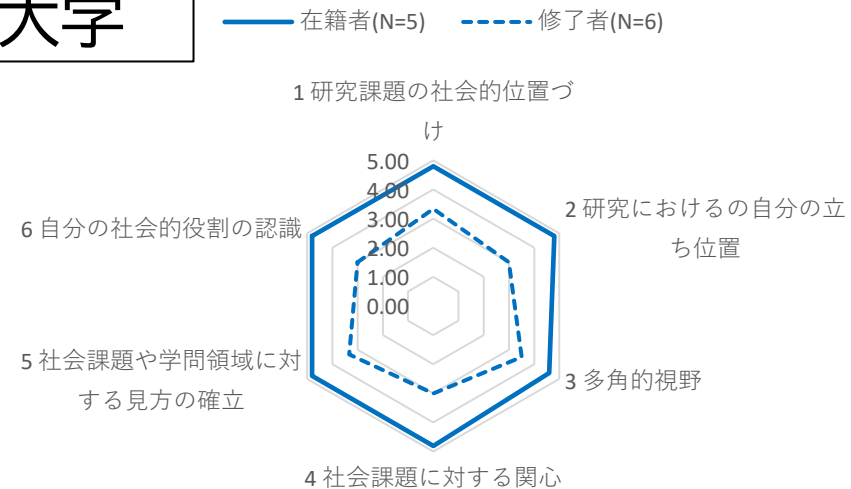


# 観点・態度・意識

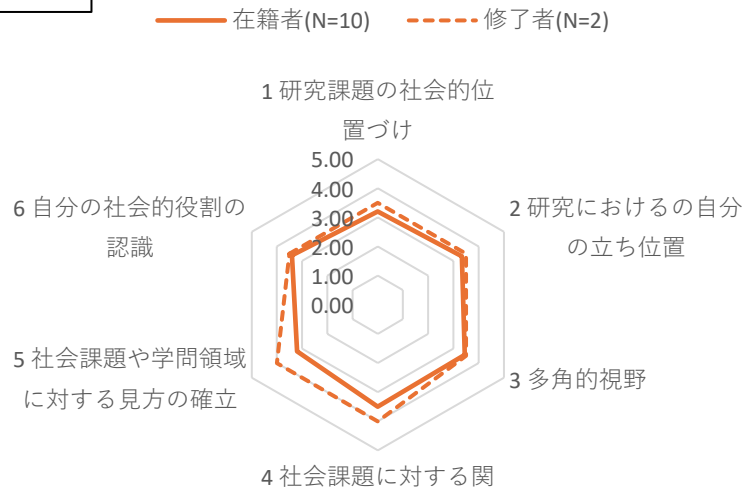
## A大学



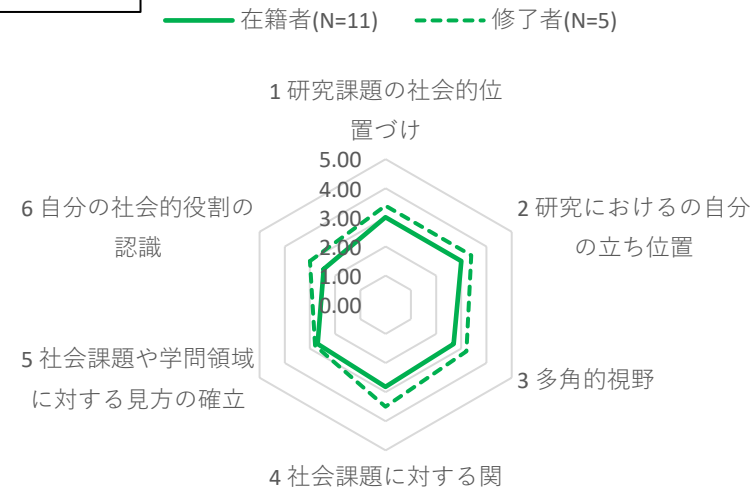
## B大学



## C大学



## D大学



# 議論

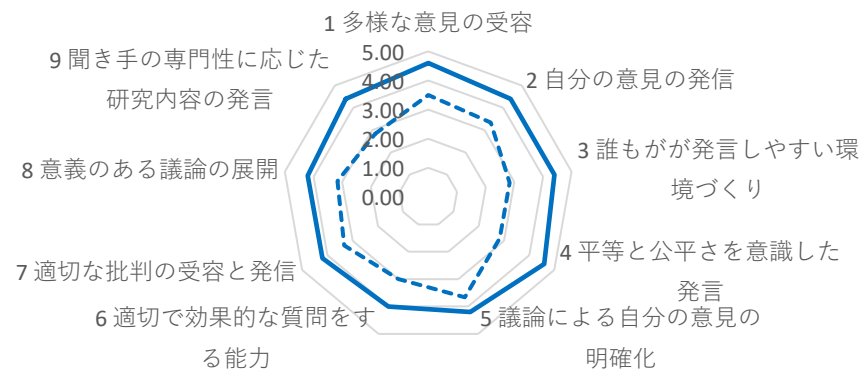
## A大学

— 在籍者(N=7)    - - - 修了者(N=9)



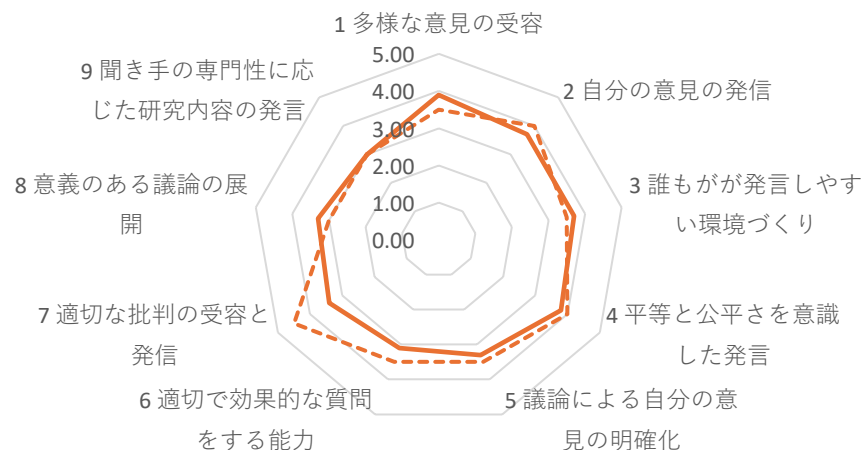
## B大学

— 在籍者(N=5)    - - - 修了者(N=6)



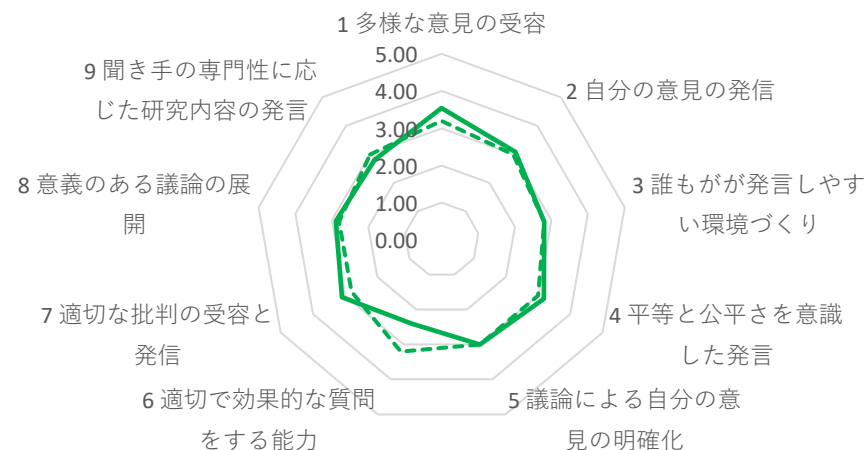
## C大学

— 在籍者(N=10)    - - - 修了者(N=2)



## D大学

— 在籍者(N=11)    - - - 修了者(N=5)

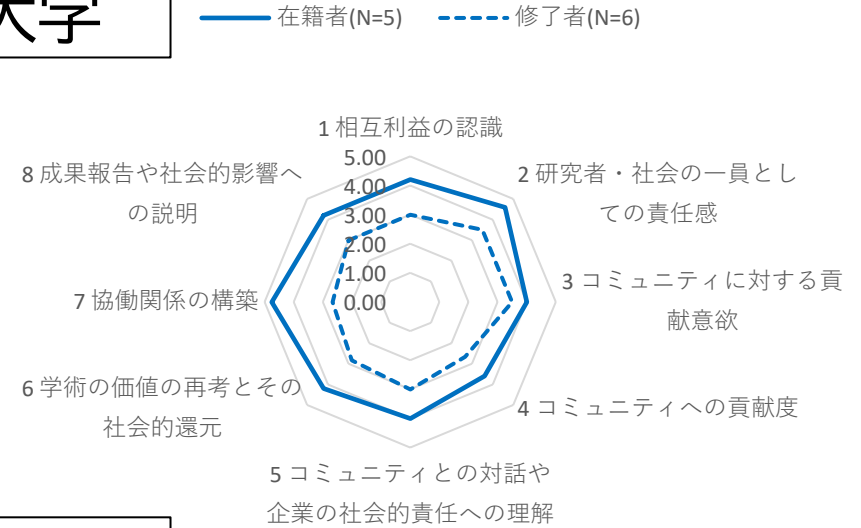


# 貢献度

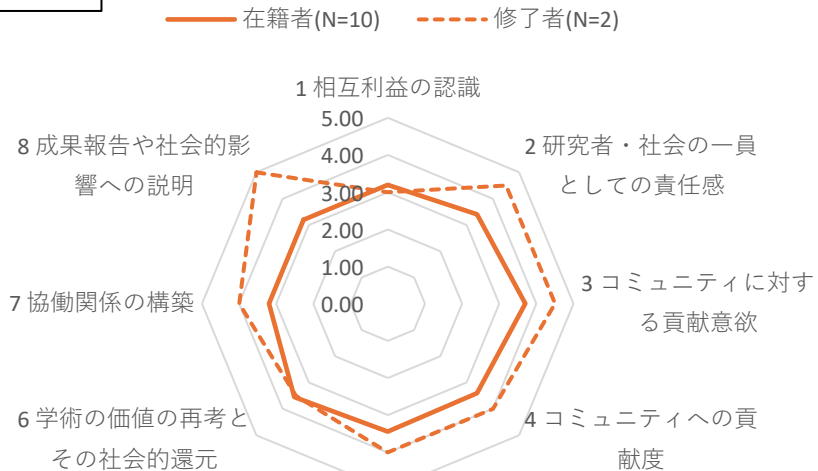
## A大学



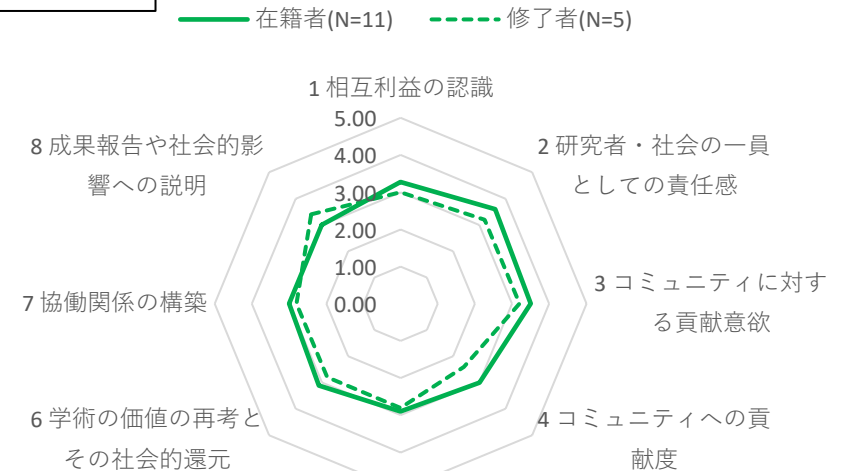
## B大学



## C大学

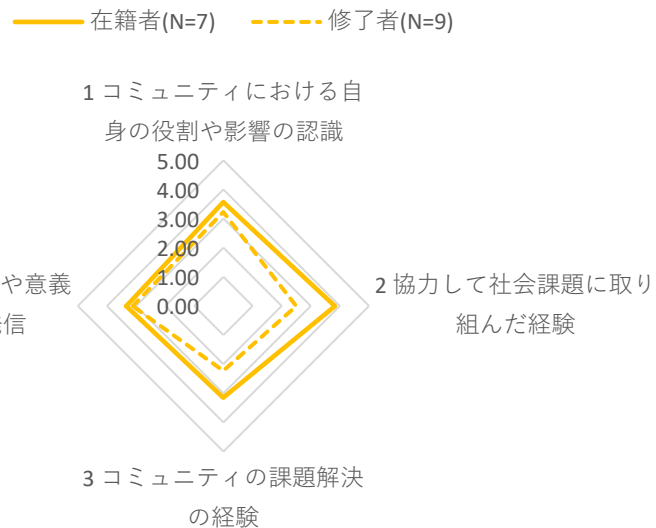


## D大学

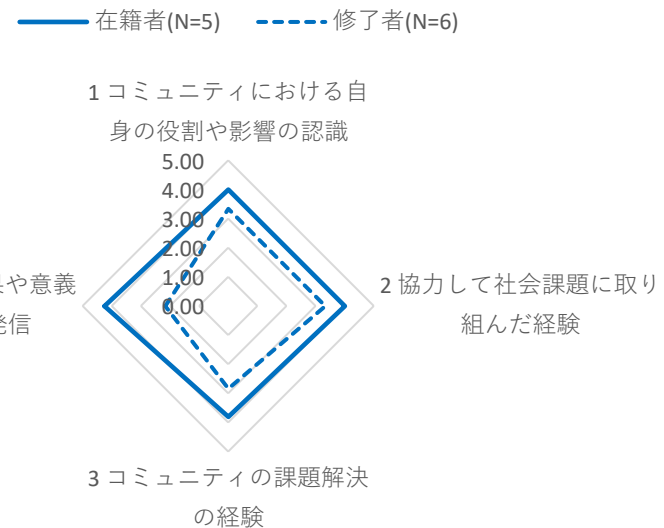


# 社会的影響

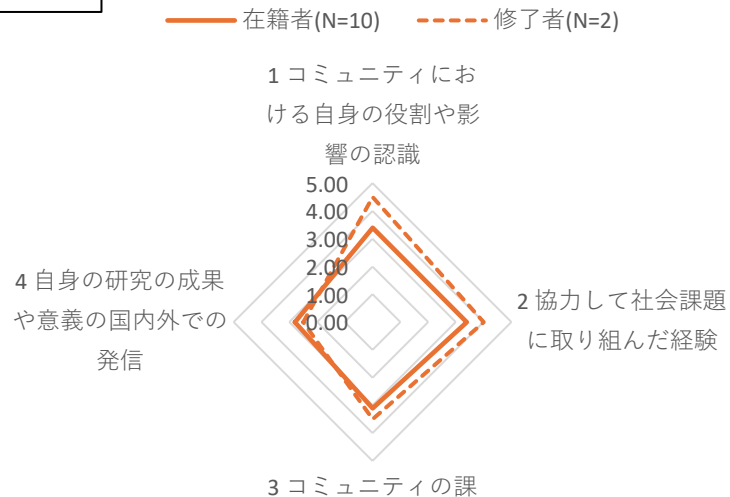
## A大学



## B大学



## C大学



## D大学

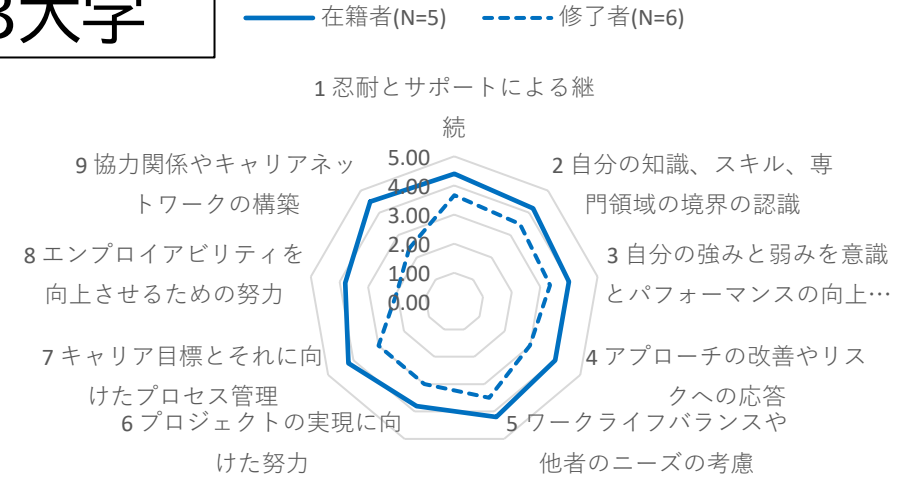


# 個人の資質

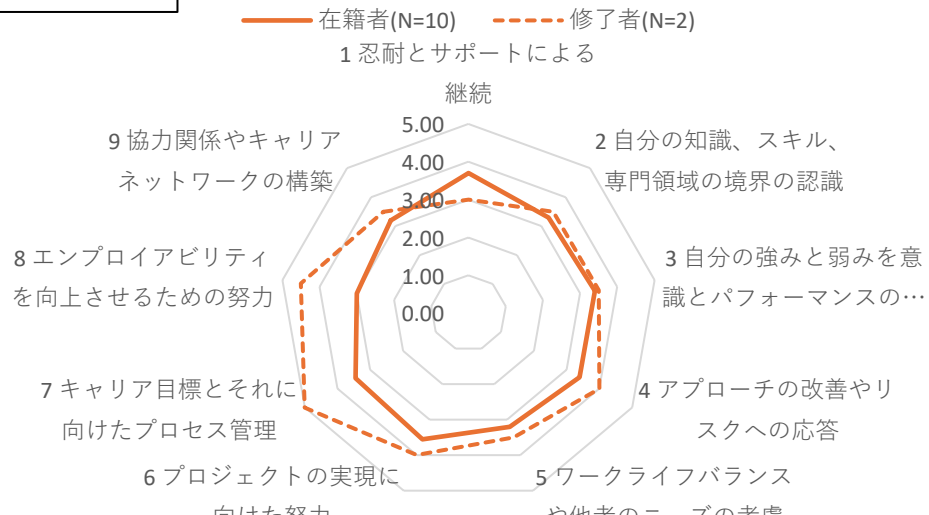
## A大学



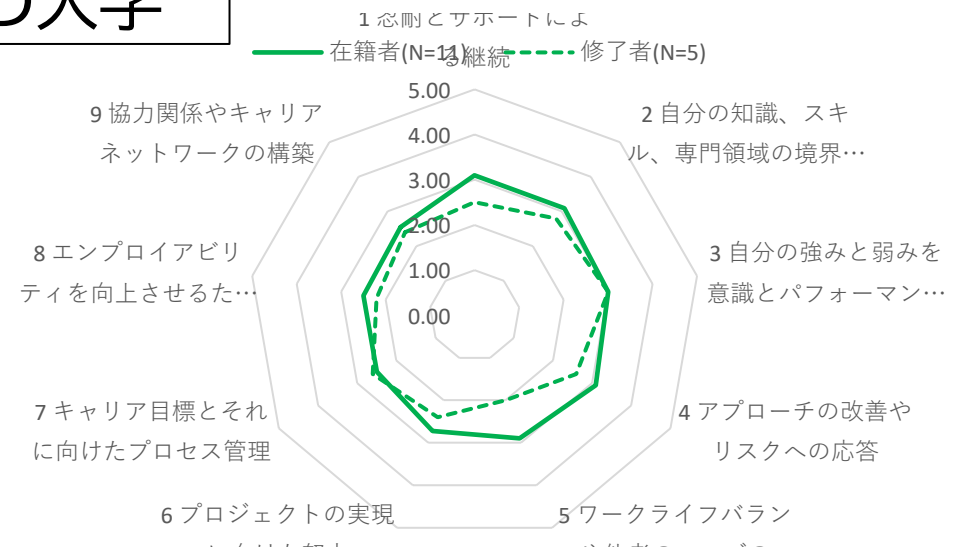
## B大学



## C大学



## D大学



# 大学間比較

## —大学院リーグ参加校—

- 全体として在学生・修了生の間には以下の傾向がみられる
  - A大学 : 在学生と修了生の結果は**ほぼ変わらない**  
「社会的影響」「個人の姿勢・態度・資質」は修了生の方がやや低め
  - B大学 : 在学生より**修了生が低い**傾向がみられる  
「貢献度」「社会的影響」「個人の姿勢・態度・資質」において修了生が低め
  - C大学 : 参考値のためコメントは避ける
  - D大学 : 在学生より**修了生が高い**傾向がみられる  
「博士号を取得する上で必要なスキル」「博士号を取得する上で必要な研究責任と運営」「思考」において修了生が高め

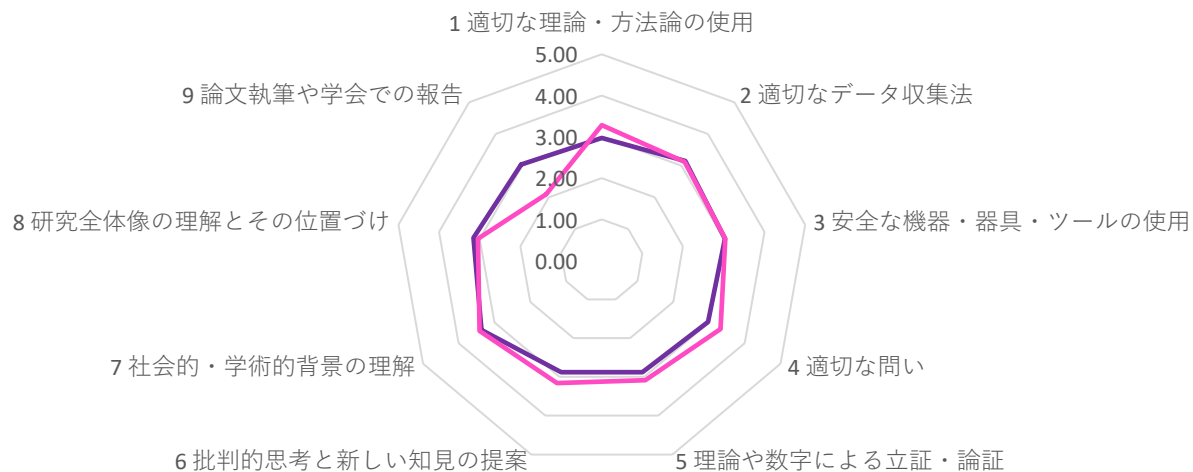
# 大学院リーグ・社会人比較



# 博士号を取得する上で必要なスキル

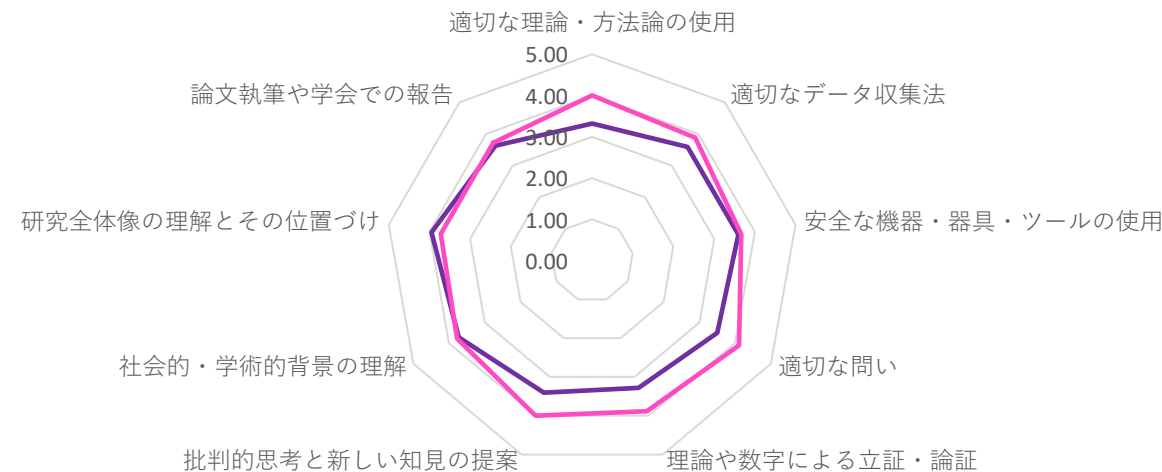
## 在学生

— 大学院リーグ(N=33) — 社会人(N=25)



## 修了生

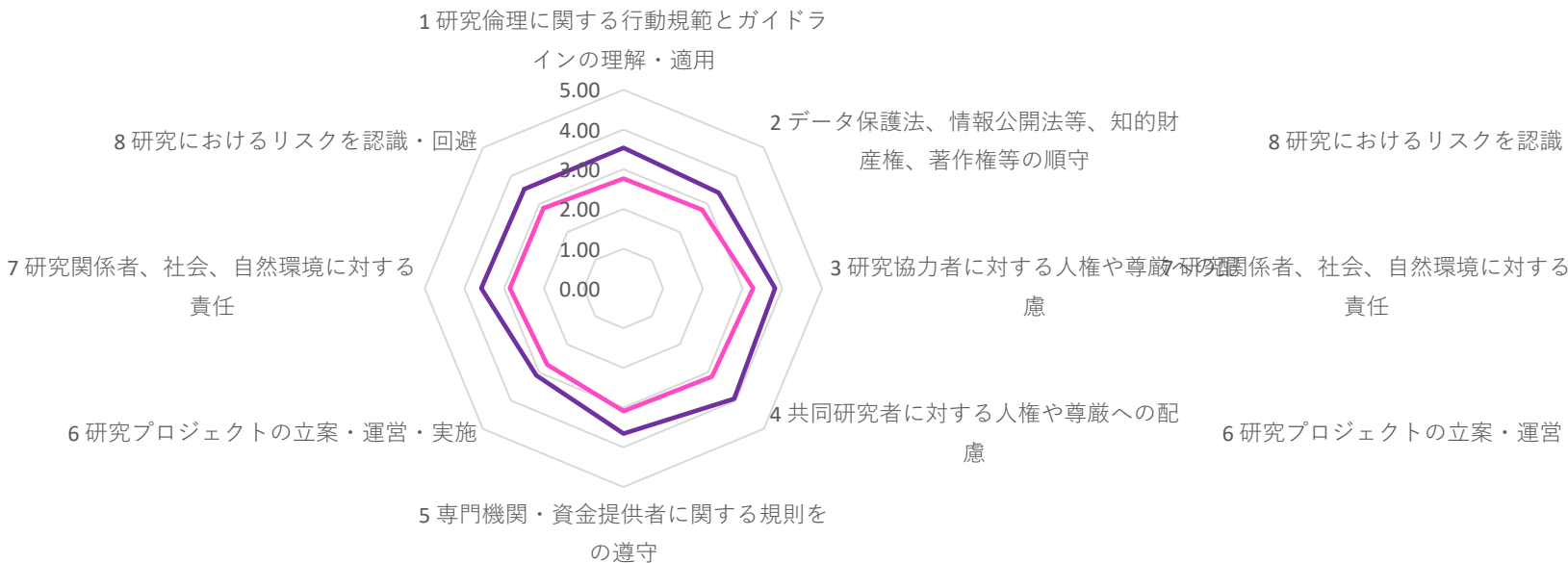
— 大学院リーグ(N=22) — 社会人(N=18)



# 博士号を取得する上で必要な研究責任と運営

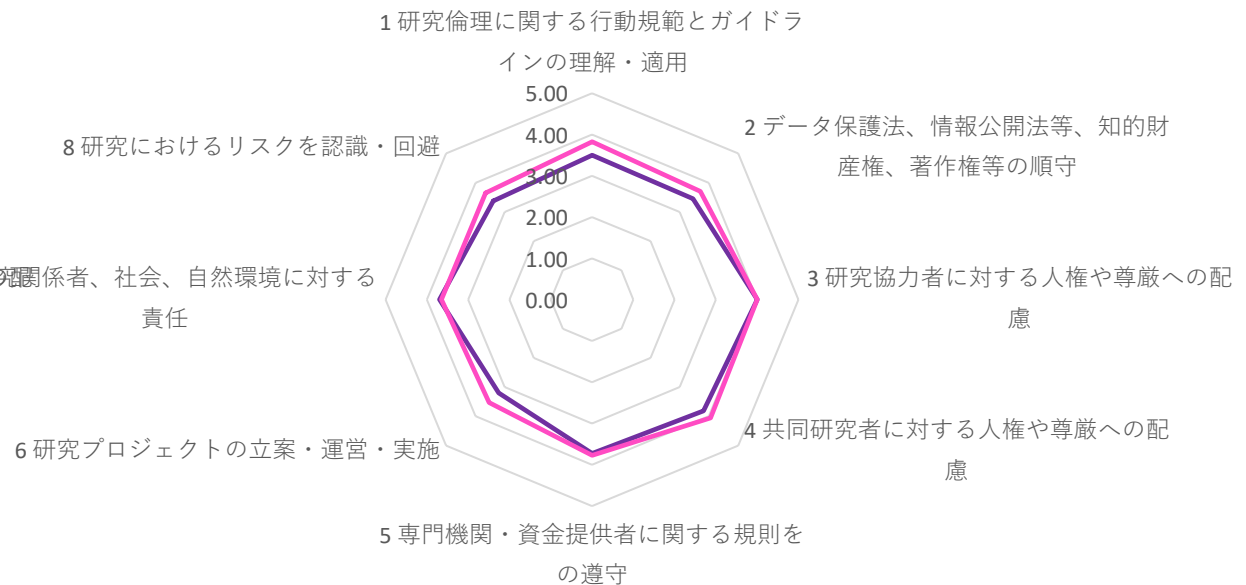
## 在学生

— 大学院リーグ(N=33) — 社会人(N=25)



## 修了生

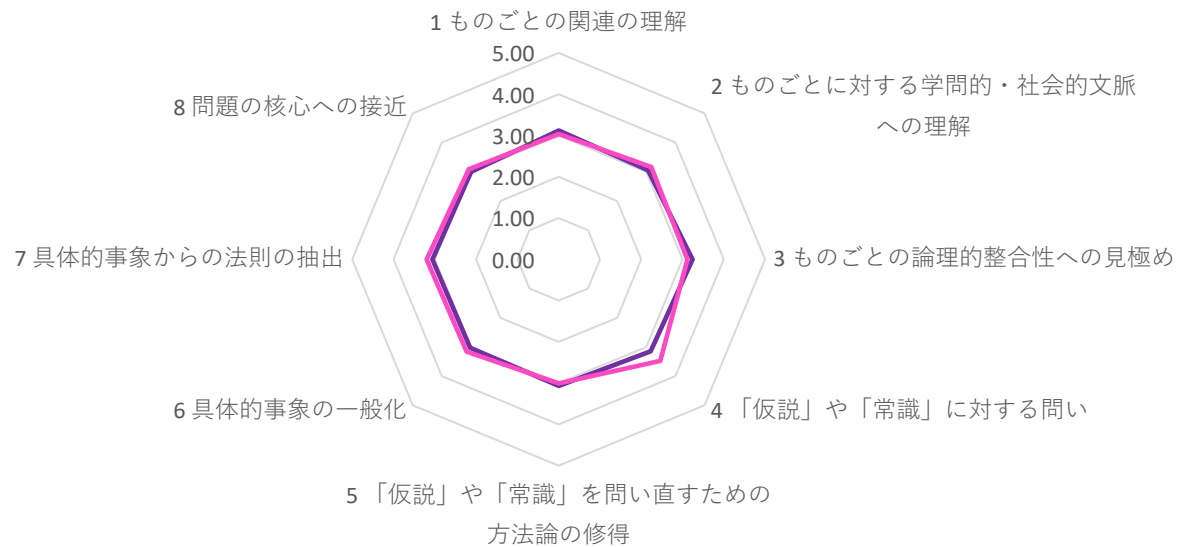
— 大学院リーグ(N=22) — 社会人(N=18)



# 思考

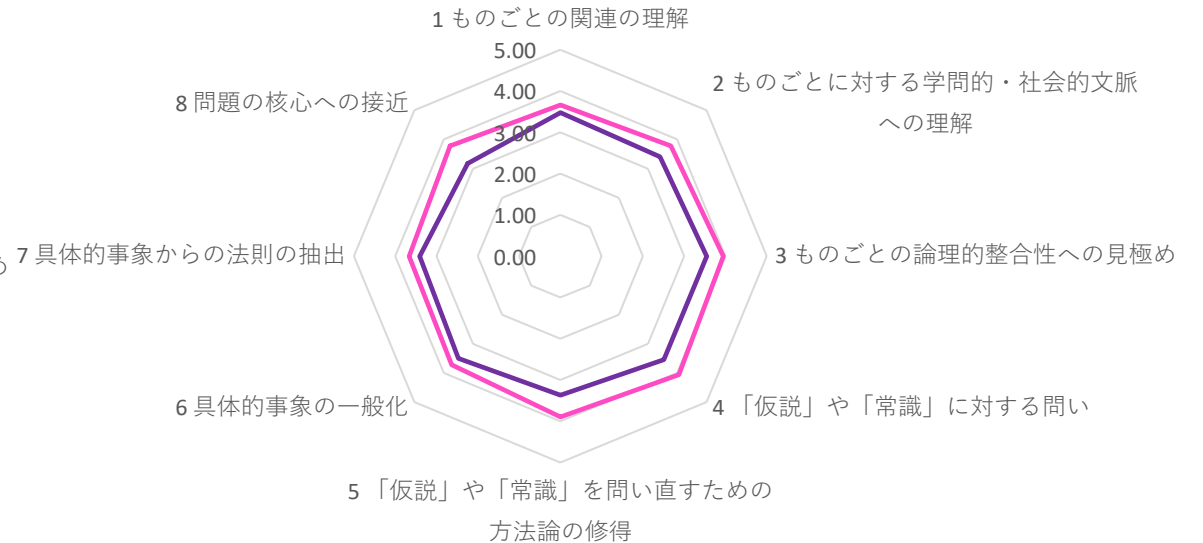
## 在学生

— 大学院リーグ(N=33) — 社会人(N=25)



## 修了生

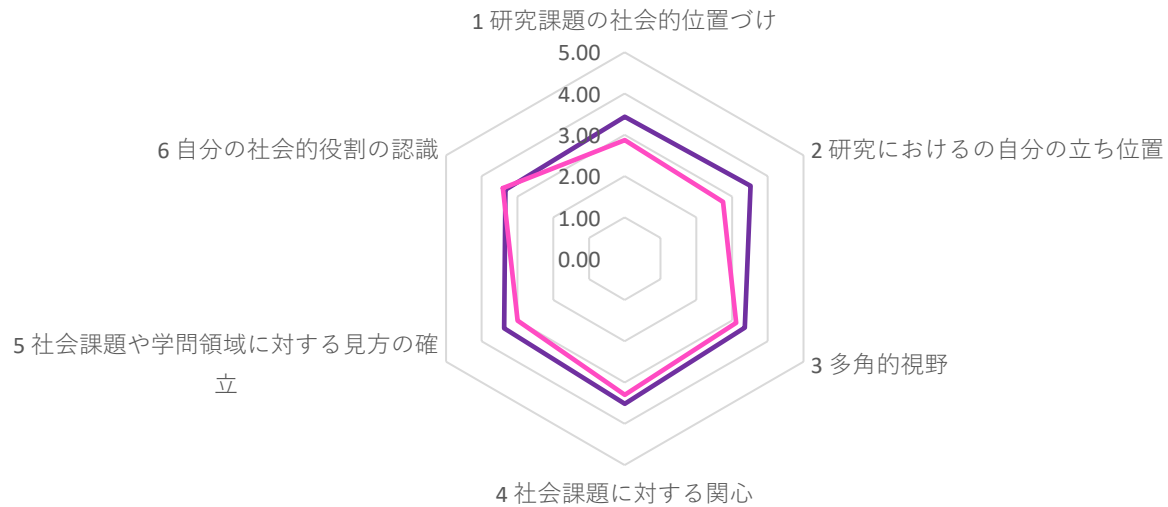
— 大学院リーグ(N=22) — 社会人(N=18)



# 観点・態度・意識

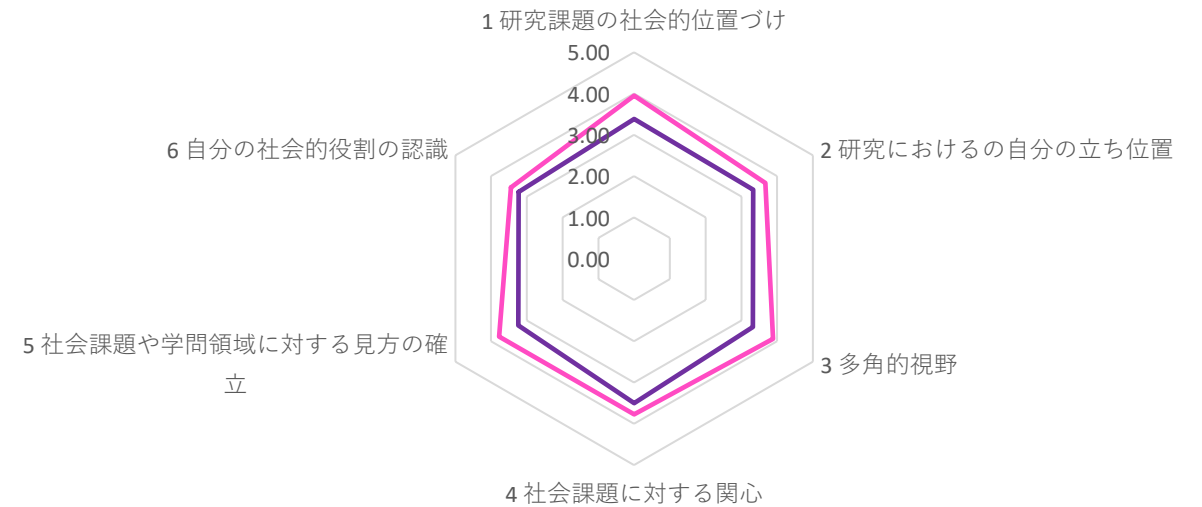
## 在学生

— 大学院リーグ(N=33) — 社会人(N=25)



## 修了生

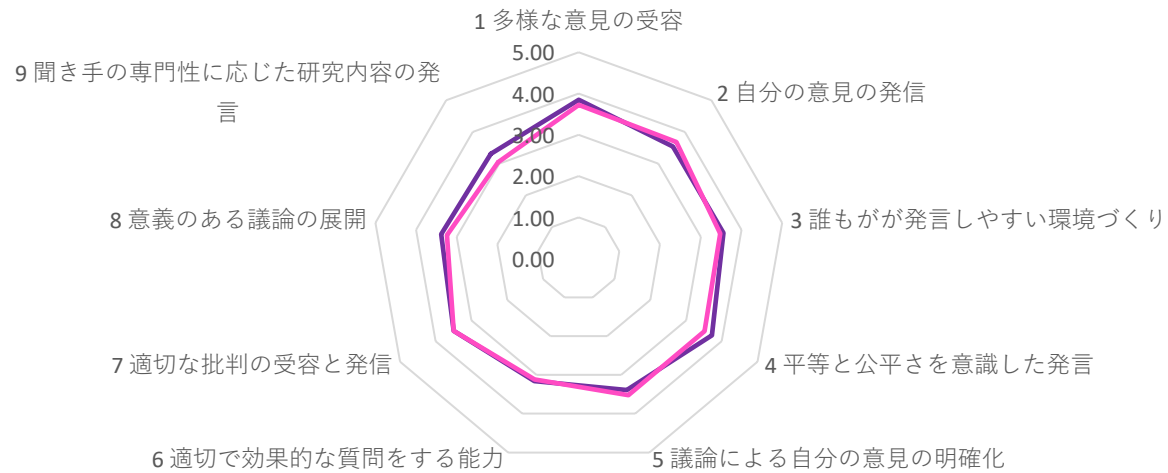
— 大学院リーグ(N=22) — 社会人(N=18)



# 議論

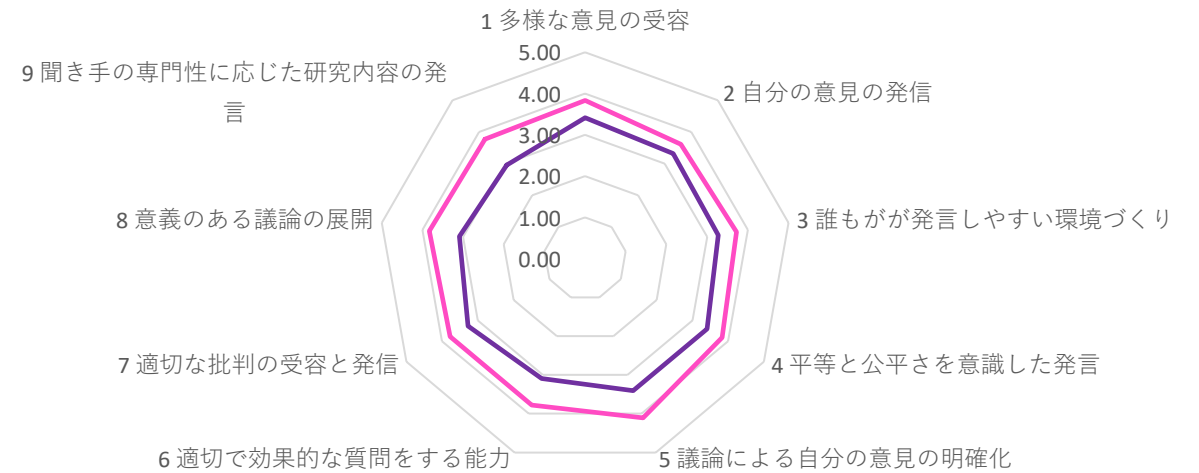
## 在学生

— 大学院リーグ(N=33) — 社会人(N=25)



## 修了生

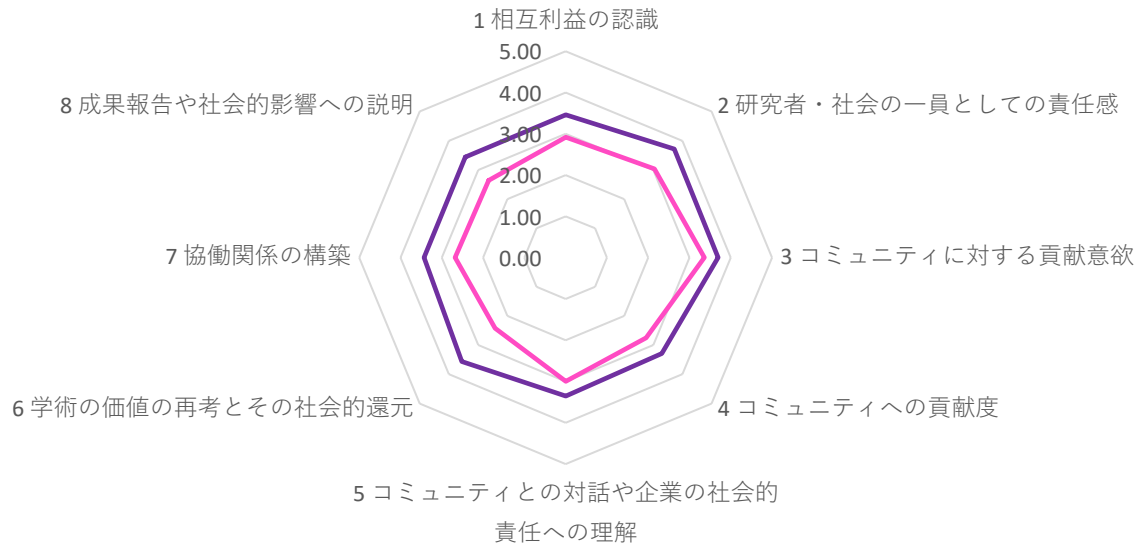
— 大学院リーグ(N=22) — 社会人(N=18)



# 貢献度

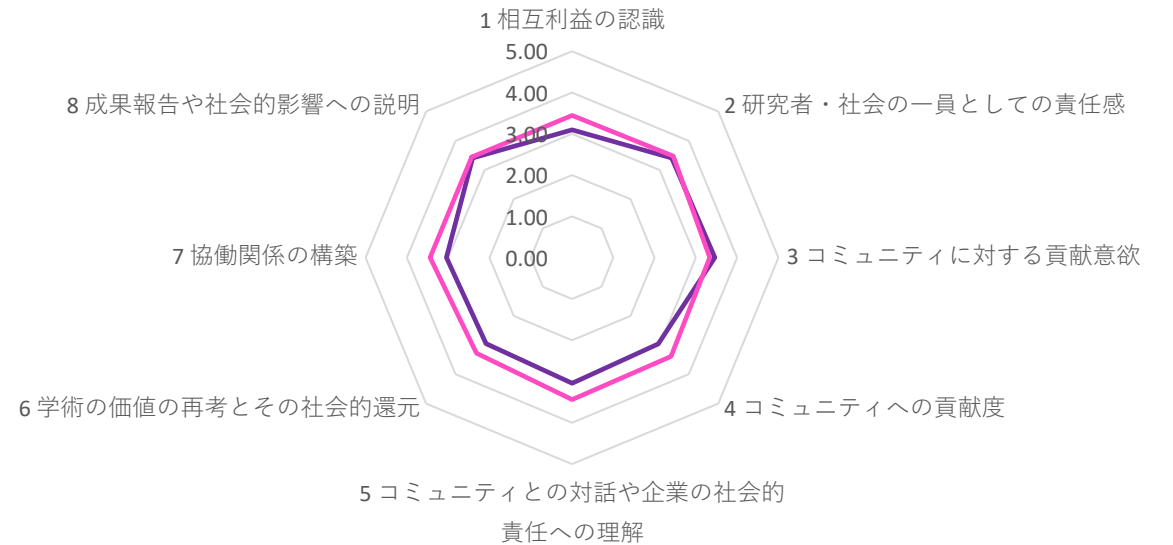
## 在学生

— 大学院リーグ(N=33) — 社会人(N=25)



## 修了生

— 大学院リーグ(N=22) — 社会人(N=18)



# 社会的影響

## 在学生

— 大学院リーグ(N=33) — 社会人(N=25)

1 コミュニティにおける自身の役割や影

響の認識

5.00

4.00

3.00

2.00

1.00

0.00

4 自身の研究の成果や意義の国内外での  
発信

2 協力して社会課題に取り組んだ経験  
4 自身の研究の成果や意義の国内外での  
発信

3 コミュニティの課題解決の経験

## 修了生

— 大学院リーグ(N=22) — 社会人(N=18)

1 コミュニティにおける自身の役割や影

響の認識

5.00

4.00

3.00

2.00

1.00

0.00

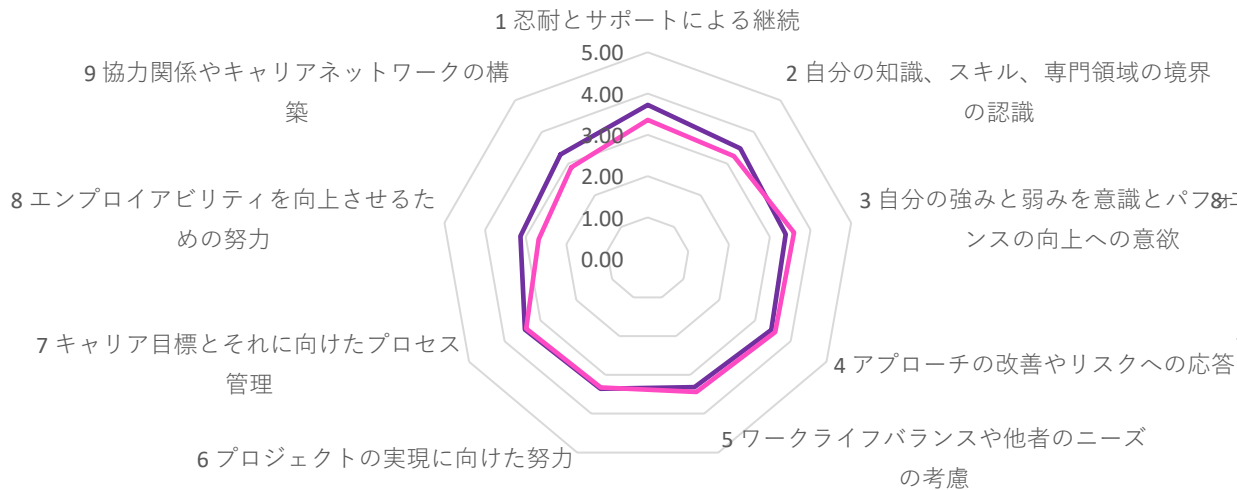
2 協力して社会課題に取り組んだ経験  
4 自身の研究の成果や意義の国内外での  
発信

3 コミュニティの課題解決の経験

# 個人の資質

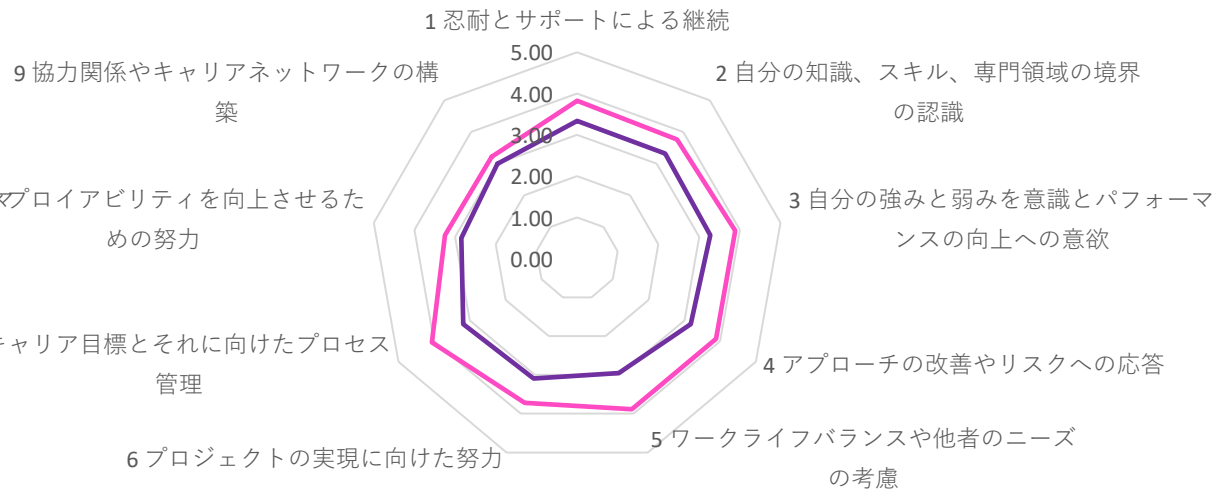
## 在学生

— 大学院リーグ(N=33) — 社会人(N=25)



## 修了生

— 大学院リーグ(N=22) — 社会人(N=18)





# リーグ全体・社会人比較

## －レーダーチャート－

- 全体として、**在學生はリーグ全体**、**修了生は社会人**が高い結果となっている
- 在學生では以下の項目でリーグ全体の方が高い  
「博士号を取得する上で必要な研究責任と運営」「貢献度」「社会的影響」
- 修了生では以下の項目で社会人の方が高い  
「観点・態度・意識」「議論」「社会的影響」「個人の姿勢・態度・資質」
- 修了生について、リーグ全体の方は各大学の統合の結果、全体のバランスが取れていると考えられるが、社会人の方は全体的にバランスがよい結果となっている